

和仏法律学校講義録

掛下, 重次郎 / 矢作, 榮藏 / 松岡, 義正

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

号外の9

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1901-06-10

和佛法律學校

講義錄

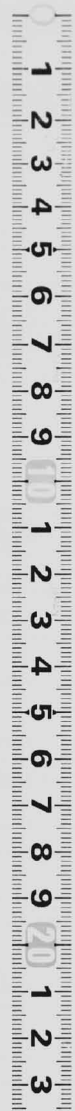
第 貳 部

號 外 之 九

商 法 海 商 (自三四五至三六八) 法律學士掛下重次郎

破 產 法 (自五〇九至五五六) 法律學士松岡義正

經 濟 學 各 論 (自一五七至一八四) 法律學士矢作榮藏



090
1900
2-2-9

レ商法カ此ノ如キ場合ニラモ被保險者ハ直チニ其船舶ヲ最早使用ニ堪ヘサ
ルモノトシ輒ク委付ノ申込ヲ爲シ保險者ヲシテ適當ノ損害ヲ被ラシムルコト
ヲ恐レテ右ノ如キ規定ヲ爲シタルトモ新法ハ既ニ叙述シタルカ如ク船舶カ修
繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其如何ナル場合タルヲ問ハス常ニ之ヲ
委付スルコトヲ得ルモノトシタルカ故ニ舊法ノ如キ區別ヲ爲ササルナリ而シ
テ船舶カ坐礁又ハ膠沙シタルトキハ其如何ナル場合タルヲ問ハス總テ本場合
ニ入ルモノト謂フヘカラス右ニ述ヘタルカ如ク引卸ノ爲メ莫大ノ費用幾多ノ
時日ヲ要シ之ヲ引卸シテ得失相償ハサルカ如キ場合ノ如キハ本場合ニ入ルヘ
シト雖モ然ラスシテ些細ノ費用僅少ノ時日ヲ要スレハ引卸スコトヲ得ヘキカ
如キ場合ハ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト謂フヲ得サルナリ
故ニ此場合ハ一ニ事實問題ニ歸著スルモノトスヘキナリ

第四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
捕獲トハ或戰國ノ軍艦若クハ捕拿船ニ襲ヒ捕拿免許狀ヲ帶ヒタル戰國ノ
民有船カ或船舶又ハ其積荷ヲ分捕スルヲ謂フモノニシテ戰爭法ニ依ル船舶ノ

捕獲ハ後ニ捕獲裁判所ノ判決ヲ受クルニ非サレハ國際公法上其効ナシ故ニ其捕獲セラレタル船舶ハ或ハ解放セラレルルニトアリ或ハ復奪セラレルルコトアリ或ハ買戻スコトアリ凡テ此等ノ場合ニ於テハ被保險者ハ其船舶ヲ委付シテ以テ其實ヲ保險者ニ移スコトヲ得ヘシ

第五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六箇月間解放セラレサルトキ

捕獲ハ斷乎タル處分ニシテ船舶又ハ積荷ノ所有權ハ之ヲ捕獲シタル者ニ移レトモ押收ハ此ノ如キ處分ニ非スシテ本國又ハ外國ノ命令ニ依リテ差押ヘラレタルヲ謂フ故ニ他日解放セラレヘキ望ハアレトモ其使用權ニ至リテハ全ク奪ハルルモノナレハ其實ニシテ長ク繼續スルトキハ其損害ノ及フ所始ト掠奪ニ異ナラサルモノアリ然レトモ押收ノ事實ニ基キ船舶又ハ積荷ヲ委付スル爲メニハ果シテ何程ノ期間繼續セハ十分ナリト看做スヘキカ若シ其期間長キニ過クレハ被保險者ノ利益ヲ害スヘク若シ又餘リ短キニ失スレハ保險者ノ不利ナルヘシ是ヲ以テ法律ハ官ノ處分ニ依リテ押收セラレタル船舶又ハ積荷カ六箇月

間解放セラレサルトキ被保險者ハ保險ノ目的ヲ委付シテ保險金ヲ受取ルコトヲ得ルモノトセリ

○船舶ノ行方不知ト看做ス爲メニ要スル期間—第六百七十二條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス舊商法第九六六條佛商法第三七五條第三七七條獨商法第八六六條

船舶ノ行方不知ナルトキハ委付ヲ爲スヲ得ルコトハ既ニ法律ノ規定スル所ナルカ其行方ノ知レサルトキハ恰モ人ノ失踪セル場合民法第三〇條ト同シク何程ノ期間ヲ經過スレハ斯ク謂フコトヲ得ヘキヤ之ヲ定ムル必要アリ舊商法及ヒ佛商法ノ如キハ沿岸航海ト遠洋航海トニ依リテ區別ヲ爲シ沿岸航海ノ場合ハ六箇月遠洋航海ノ場合ハ一箇年ト爲シタルトモ今日ノ如ク世界一般ニ交通機關ノ發達シタル時ニ於テ縱令遠洋航海ノ場合ト雖モ一箇年ノ長期間ヲ存ス

ヘキ必要ナク其沿岸航海タルト遠洋航海タルトヲ同ハス六箇月間モ船舶ノ存否不分明ニテ經過スレハ既ニ其行方知レサルモノト看做スニ足ルカ故ニ新商法ハ右ノ如キ區別ヲ爲スコトナク之ヲ一般ニ規定シタリ

舊商法ハ行方不知ノ期間ニ付キ起算點ヲ定メタレトモ發航ノ時又ハ其船舶ニ付キ最後ノ通信アリタル時ヨリ新商法ハ別ニ法文中ニ之ヲ規定セス蓋シ船舶ノ行方不知ノ場合モ猶ホ人ノ失踪ノ場合民法ニモ其起算點ヲ定メスノ如ク其行方不知ト爲リタルコトハ一ニ事實問題ニ屬スルヲ以テ其起算點ヲ定ムルニ二三ノ事實ニ制限スルコトヲ要セサルヲ以テナリ

保險契約ニハ其期間ヲ定メタルモノト否ラサルモノトアリ其期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ船舶ノ行方不知ノ爲メニ定メタル期間ノ盡タル時ヨリ長クレハ事理甚タ明白ニシテ別ニ説明ヲ爲スヘキ要ナシト雖モ之ニ反シテ保險期間カ船舶ノ行方不知ノ爲メニ定メタル期間内ニ經過スルコトアリ例ヘハ明治三十四年一月一日船舶ニ六箇月ノ保險ヲ付シ其船舶ハ同年三月一日南洋ニ向ヒ出航シタル儘通信ナク行方知レサル場合ニ於テ保險契約ノ期間ハ六月三十

日ヲ以テ盡了スレトモ其當時ニ在リテ其船舶ハ出航後四箇月ヲ經過シタルノミナルヲ以テ未タ法律上之ヲ行方不知ノモノト看做サス其年八月三十一日以後ニ於テ始メテ行方不知ノモノト確定スルモノナレハ此場合ニ於テ保險者ハ此船舶ニ對シテ最早責任ナク又被保險者ハ之カ委付ヲ爲スコトヲ得サルニ付キ疑ナキ能ハス是レ本條第二項ノ規定アル所以ニシテ總令保險期間カ行方不知ノ爲メニ定メタル期間ノ盡キサル以前ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ是レ諸國ノ法律ニ普設タル所ノ規定ニシテ船舶ノ滅失カ保險期間内ニ生シタルモノト看做シタルニ在ルナリ然レトモ保險者ハ保險期間内ニ生セタル滅失ニ付テハ被保險者ニ對シテ固ヨリ其損失ヲ填補スヘキ責ナキコト論ヲ竣タサレハ苟モ船舶カ保險期間内ニ滅失セサリシコトノ證據アル場合ニ於テハ其委付ハ無効ニ歸セサルヘカラス例ヘハ船舶ヲ六十日間ノ保險ニ付シ明治三十四年一月一日南洋ニ向ヒテ出航シタル場合ニ於テ同年三月三日埃太利亞洲ノ或港ヨリ通信アリタル儘行方不知ト爲リタルトキハ其船舶ハ同年九月二日ヲ以テ行方不知ト看做サルヘシト雖モ其滅失ノ

發生ハ保險期間ノ滿了明治三十四年三月一日後ナルヲ以テ此場合ニ於テ保險者ハ其船舶ノ滅失ニ對シテ責任ヲ負ハサルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ保險者ハ自己ノ利益ナルコトノ證據ヲ舉クヘキ責任アリ何トナレハ保險者ハ保險期間ヲ經過シタル後船舶ノ滅失シタリトノ反對證據ヲ舉クルコトヲ得ヘシト雖モ被保險者ハ其保險期間内ニ船舶ノ滅失シタルコトニ付テハ音信ナキカ故ニ立證ヲ爲スコト至難ナレハナリ若シ此場合ニ於テモ被保險者ヨリ立證スヘキモノトスルトキハ多クハ保險契約上ノ權ヲ失フニ至ルヘキナリ

○第六百七十一條第三號ノ例外——第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ運滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス舊商法第九六八條佛商法第三九一條乃至第三九四條)

第六百七十一條第三號ニハ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキトアリトモ其場合ハ單ニ船舶ニハ限ラス積荷モ包含スルコトアリ例ヘハ積荷カ暗礁ニ乗上ケタル船舶ニ積載シアリテ之ヲ他ノ船舶ヲ以テ陸揚港ニ運送スヘキ

方法ナキカ縱令之アリトモ其運送ヲ爲スニハ數多ノ時日ヲ要シ豫期ノ時日ヨリ大ニ運滞スルカ如キ場合ニ於テハ被保險者ニ其積荷ノ委付ヲ爲シ其保險金ヲ受取ルコトヲ許ササルヘカラス然ラサレハ被保險者ハ積荷ノ價額ノ下落又ハ時機ヲ失シタルカ爲メ意外ノ損失ヲ被ルヘケレハナリ然レトモ右ノ如キ場合ニ於テ船長カ他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シ運滞ナク之ヲ陸揚港ニ運送シタルトキハ被保險者ハ之カ爲メ毫モ損害ヲ被ルコトナキヲ以テ此ノ如キ場合ニハ積荷ヲ委付スルコトヲ許スヘキ理アラサルヲ以テ法律ハ第六百七十一條第三號ノ例外トシテ此規定ヲ設ケタリ而シテ其損害ヲ受ケタル船舶ノ船長ハ此ノ如キ場合ニハ代船ヲ出スヘキ權利アリ亦義務アルモノニシテ爾後保險上ノ危險ハ其代船ニ移ル何トナレハ其船舶ノ代換ハ必要ニ出テタレハナリ此場合ニ於テ保險者ハ事變ノ爲メニ生シタル直接又ハ間接ノ積荷繼續上ノ費用ヲ負擔スヘキ義務アルヤ言フヲ俟タサルナリ

○委付ヲ爲スヘキ期間——第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス前項ノ期間ハ第

六百七十一條第一號第三號及第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス舊商法第九六九條佛商法第三七三條第三七四條獨商法第八六八條第八六九條

被保險者カ委付ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テ果シテ委付ヲ爲サントスルカ又ハ單ニ損害ノ填補ヲ請求スルニ止メントスルカ其關係久シク確定セスシテ存積スルトキハ當事者ノ迷或尠少ナラサルヘシ是ヲ以テ委付ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタリ而シテ舊商法ニ於テ委付ノ理由タル事實ノ發生ヲ保險者ニ通知スヘキ旨ヲ規定シタリト雖モ海上保險ノ契約ニハ第六百五十三條ノ規定ニ依リ損害保險第三編第十章第一節ノ規定ニ關スル第四百十二條ヲ適用スルカ故ニ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ其通知ヲ爲スヘキ義務アルヲ以テ再ヒ茲ニ同一ノ規定ヲ設ケタルナリ

七一條第一號船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ同條第四號ハ被保險者カ其

事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス又再保險ノ場合即チ保險者カ損害ノ生シタルトキ之ヲ受ケサランカ爲メ其保險シタル物ヲ已レ自ラ他ニ對シテ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ第一項ノ期間ヲ起算スルモノトセリ法律カ此規定ヲ設ケタルハ蓋シ再保險ノ場合ニ於テハ第二ノ被保險者ハ第二ノ保險者ニ對シテハ被保險者ナレトモ第一ノ被保險者ニ對シテハ已レ自ラ保險者ノ地位ニ立ツカ故ニ多クハ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ第一ノ被保險者ヨリ之カ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ委付ヲ爲スヘキ事由ヲ知リタルモノト看做シタルニ由ルナリ

以上ノ規定ハ單ニ委付ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルニ過キサレハ縱令此期間ヲ意リタリトスルモ委付ヲ爲スコトノ權利ノミニ影響スルモノニシテ之カ爲メ保險契約ヨリ生スル他ノ權利義務ニ毫モ影響ヲ生セサルナリ故ニ本條ノ期間ヲ怠リタル被保險者ハ被保險物ノ委付ヲ爲スコトヲ得スト雖モ之ヲ委付セスシテ保險者ヲシテ單ニ事變ヨリ生スル所ノ損害ヲ填補セシムルコトヲ得ルハ

論ア埃タナルナリ

○委付ノ單純ナルコト——第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス。委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス。但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得。保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得。商法第九六五條第三項、佛商法第三七二條。

委付ハ單純ナルコトヲ要ストハ條件又ハ期限附ニテ委付ヲ爲スコトヲ許ササルノ意義ナリ。若シ然ラザルニ於テハ委付ヲ許セタル主意ニ反スレハナリ。蓋シ委付ノ目的ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ移シテ迅速ニ當事者ノ關係ヲ確定シ之ヲ終結スルニ在リ之ニ條件ヲ附スルコトヲ許ストキハ此目的ニ反スルヤ明白ナリ。且ツ元來委付ハ被保險者ノ權利ニシテ其義務ニ非ナルカ故ニ被保險者カ條件ヲ附スルニハ必スヤ自己ノ利益ヲ圖リテ常ニ保險者ノ不利タルヘキヤ。雖然タルヘキナリ。此ノ如キハ固ヨリ許スヘカラサルナリ。

委付ノ原因カ保險ノ目的ノ全部ニ付キ生シタルトキハ委付ヲ其全部ニ對シテ

爲ササルヘカラサルモノニシテ其中一部ニ對シテ委付ヲ爲スコトハ許サレ、尤ムナリ。若シ之ヲ許スニ於テハ被保險者ハ海難ニ遭ヒタル物件中善良ナル部分ヲ選擇シテ之ヲ自己ニ存シ其不良ナル部分ノミヲ保險者ニ委付シ保險者ヲシテ甚シキ不利益ヲ受ケシムルニ至ルヤ必然ナリ。是レ委付ヲ許シテ被保險者ヲ保護スル目的ヲ超越セリ。委付ハ不可分ニシテ此ノ如キ場合ニ於テハ被保險者ハ物件ノ全部ヲ自己ニ存シテ委付ヲ爲ササルカ若クハ委付ヲ爲サント欲セハ其全部ヲ保險者ニ交付セサルヘカラサルナリ。

然レトモ若シ委付ノ原因カ保險物ノ全部ニ付キ生セスシテ單ニ其一部ニ付キ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ許ササルヘカラス。此場合ニ委付ヲ許シタリトモ之カ爲メ保險者ニ不當ノ損失ヲ受ケシムルニ非スシテ至當ノコトニ屬セリ。

又保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタルニ非スシテ其一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ハ十分ノ六ナルヲ以テ被保險者ハ積荷ノ全部ニ對シ十分ノ六丈委付ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ殘ル十分

ノ四ニ付テハ依然自己ニ其積荷ニ關スル一切ノ權利ヲ保存スルヤ言フヲ埃タサルナリ

○委付ニ對スル異議——第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

保險者カ委付ニ對シ承認ヲ與ヘタルトキ後日ニ至リ異議ヲ述フルコトヲ許ストキハ當事者ノ委付ニ付テノ關係長ク確定セザルニ至ルヲ以テ一旦承認ヲ爲シタル以上ハ其意思表示ハ容易ニ之ヲ罷スコトヲ許ササルナリ然レトモ其承認ト雖モ詐欺又ハ脅迫ニ因リタルトキハ民法總則ノ規定民法第九六條ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得ルヤ論ヲ埃タサルナリ(第二九四條參照)又保險者カ委付ニ付キ縱令承認ヲ爲シタルト雖モ被保險者カ委付ヲ爲ス當時委付カ法律ノ規定シタル場合ニ適合セス若クハ海難既ニ去リテ當事者ニ於テ其旨ヲ了知セシカ如キ場合ニ於テハ異議ヲ唱フルコトヲ得ヘシ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得ヘカラサレハナリ

○委付ノ效力——第六百七十七條 保險者カ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的

ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス(被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス)舊商法第九七二條、佛商法第三八五條

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險者ハ保險金ノ全額ヲ支拂フヘキカ故ニ其代リニ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有スル一切ノ權利ヲ保險者ニ移スハ當然ナリ左レハ委付ノ效力トシテ保險者ハ保險金ヲ支拂フヘキ義務アリ被保險者ハ保險ノ目的ヲ拋棄シテ其一切ノ權利ヲ保險者ニ移スヘキ義務アリ又被保險者ハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スヘキ義務アリ而シテ此委付ノ效力ハ被保險者ノ意思表示ト共ニ直チニ定マルモノナレハ一旦申込ミタル委付ノ效力ハ後日ニ至リ船舶ノ救助又ハ其歸航ニ依リテ變更スヘキモノニ非サルコトハ論ヲ埃タサル所ナリ是ヲ以テ新商法ハ舊商法ノ如ク斯ル規定ヲ設ケサルナリ(舊商法第九七五條)

又保險ノ目的ニ關スル證書ハ委付ヲ爲シタル以上ハ被保險者ニ於テ之ヲ保存スルノ必要ナキニ反シ保險者ニ取リテハ必要缺クヘカラサルモノニシテ若シ

之ナキニ於テハ保險者ハ之ニ關スル權利ヲ行使スルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ保險者ニ交付スルハ至當ナリトス

○保險金受取ニ付テノ要件及ヒ之ヲ受取ルコトヲ得ヘキ期間—第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス保險金ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス(舊商法第九七)條佛商法第三八三條同第三八四條獨商法第八七三條)

被保險者ハ據ニ舉ケタル義務ノ外尙ホ一ノ義務ヲ負ヘリ即チ保險ノ目的ニ關シ他ニ對シテ保險ニ付シアルトキハ其契約並ニ保險ノ目的カ負擔スヘキ債務ノ有無及ヒ種類等ヲ保險者ニ通知セサルヘカラス此等ノモノハ委付ヲ爲シタルトキハ總テ保險者ノ利害ニ關スレハナリ而シテ此通知ヲ受クルコトハ保險者ノ爲メニハ必要ナルニ被保險者カ之ヲ等閑ニ付スルコトナシトセス故ニ其

義務ノ制裁トシテ被保險者カ此通知ヲ爲ササル間ハ之ニ對シ保險金ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セサルモノトセリ

他ノ保險契約ヲ保險者ニ通知スヘキコトハ重複保險ノ場合第三八七條ニ必要ヲ見ルナリ即チ同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ數多ノ保險者各割合ニ應シテ損害ヲ填補スル責任アリ又保險ノ目的ノ負擔ニ屬スル債務ノ通知ヲ爲スバ其債權者ノ請求權移リテ保險額内ニ轉スレハナリ

保險額ノ支拂ニ關シテ一定ノ期間ヲ設ケタル場合ニ在リテハ保險者カ右ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ其期間ヲ起算スルコトトシ右法律カ規定シタル所ノ主意ヲ貫徹セシメタリ

○委付ノ原因ノ證明—第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セザルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

被保險者カ被保險者ノ爲サントスル委付ヲ異議ナク承認シタルトキハ之ニ因リ

其委付ハ直チニ確定スルヲ以テ別ニ論スヘキコトナシト雖モ若シ保險者カ被保險者ノ爲サントスル委付ヲ不當ト認メテ之ニ承認ヲ與ヘサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因タル事實ヲ證明セサルヘカラス而シテ此證明ヲ爲ササル以上ハ被保險者ハ其責任ヲ盡シタリト謂フコトヲ得サルヲ以テ保險金ノ支拂ヲ強要スルコトヲ得サルナリ是レ證據法ノ原則上然ルヘキノ規定ナリ

第六章 船船債權者

船船モ他ノ財産ノ如ク債權ノ擔保タリト雖モ債權者カ普通ノ者ナルト船船ニ付キ抵當權第六八六條ヲ有スルト先取特權ヲ有スルトニ因リテ其權利同一ナラサルナリ而シテ普通債權者ノ請求權ハ民法ノ規定ニ依ルモノナルカ故ニ特ニ茲ニ規定スヘキ必要ナシ然レトモ債權者カ船船ノ上ニ先取特權及ヒ抵當權ノ如キ物上擔保權ヲ有スルトキハ特ニ本法ノ規定ニ依ルモノナルカ故ニ之ヲ商法ノ如ク一章トシテ規定シタル所以ナリ

○債權者カ先取特權ヲ有スル場合——第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有ス

- ル者ハ船船其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス
- 一 船船並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二 最後ノ港ニ於ケル船船及ヒ其屬具ノ保存費
- 三 航海ニ關シ船船ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 救援並ニ救助ノ費用及ヒ船船ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八 船船カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ船裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船船ノ
- 九 船裝食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九 第二號第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權商法第八四九條商法第一九〇

本條ニ於テ船舶債權者カ有スル權利ニ付テハ舊商法ニ於テハ別ニ先取特權ナル文字ヲ用ヒス其第八百四十條ニ依レハ船舶債權者ニ追及權アルコト明瞭ナレトモ其性質ハ不明ナリシト雖モ本法ニ於テハ先取特權ナル文字ヲ用ヒ明カニ其性質ヲ示シタルカ故ニ本章ニ特別規定ナキモノハ直チニ民法ノ規定力適用セラレルモノトス

本條先取特權ノ目的タルモノハ唯リ船舶及ヒ其屬具ニ止マラス未タ受取ラサル運送貨モ亦然ルナリ船舶ノ屬具カ船舶ト共ニ先取特權ノ目的タルハ屬具ハ船舶ノ從物第五三九條ニシテ從物ハ主物ノ處分ニ隨フヘキ民法ノ原則民法第八七條アルカ故ニ屬具カ船舶ト共ニ先取特權ノ目的タルハ當然ナレハ此外ニ說明ヲ要セス然レトモ未收ノ運送貨カ何故ニ船舶ト共ニ先取特權ノ目的タルカハ說明ヲ要スルナリ蓋シ運送貨ハ船舶ノ法定果實ニシテ其未タ受取ラサルモノハ恰モ天然果實ノ元物ヨリ未タ分離セラレサルモノノ元物ノ部分ト看做サレ之ト共ニ先取特權ノ目的タルト同シクシテ運送貨モ船舶ノ部分ト看做サルニ外ナラサルナリ是レ舊商法第二五九條第二六〇條第二七一條第二八〇

第三二〇條獨商法第七五九條其他ノ國ニモ本法ト同一ノ立法例ヲ見ル所ニシテ船舶債權者カ運送貨ニ付キ本條ノ權利ヲ有スルハ運送貨ノ未タ受取ラサルモノニ限ル若シ運送貨ニシテ既ニ受取ラレタルトキハ最早之ヲ船舶ノ部分ト看做スヲ得サルコトハ猶ホ天然果實ノ其元物ヨリ分離シタルトキハ元物ノ一部ト看做サレサルカ如キナリ

法律カ船舶債權者ニ此特權ヲ與フルハ蓋シ船舶ノ製造保存若クハ其航海上ノ利益債權者ノ勢力等ニ基クモノニシテ他ノ債權者ハ右ノ如キ恩惠功勞等ヲ加フルコトナケレハ獨リ本條ノ債權者ニ特別ノ辨償ヲ爲スハ最モ權宜ニ協フモノトスルニ出テタルナリ加之カ爲メ航海ノ業ヲ廣ク發達スルノ理由アリ殊ニ本條第三號ノ債權ハ國庫ニ與フル普通ノ特權ナリ然レトモ第九號ノ債權ハ普通ノ原則ヨリ生スルニ非スシテ特別ノ理由ヨリ生スルモノナリ

第一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費 此費用ハ民法第三百六條ニ般ノ先取特權ノ第一ニ位スル共益ノ費用ニ相當シ此

費用ヲ支出セザレハ債權者カ配當ヲ受クルニ至ラザルモノニシテ他ノ債權者一般ヲ益スルモノナレハ之ニ特權ヲ與ヘ第一位ニ置キタルモノナリ

第二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費 此債權ニ先取特權ヲ與フヘキモノナルコトハ民法ニ於テ動産ノ保存費用及ヒ不動産ノ保存費用ニ先取特權ヲ與ヘタルニ依リ知ルコトヲ得ヘケレハ別ニ説明ヲ要セザレトモ唯此順位ニ付テハ一言セサルヘカラス舊商法ニ於テハ此保存費ハ船舶ニ課シタル諸稅ノ下位ニ置キタレトモ本法ニ於テハ彼此順位ヲ顛倒セリ是レ他ナシ此保存費ハ最後ノ港ニ於テ生ヅタル債權ナルカ故ニ政府又ハ他ノ公共團體カ取立ツル諸稅ヨリモ必要ニシテ此保存費ヲ支出シタレハコン諸稅モ亦取立ツルコトヲ得ヘケレハナリ

第三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅 船舶ハ之ニ課セラレタル諸稅ヲ支拂フカ故ニ航海上種種ノ保護ヲ受クルモノニシテ港内ノ建築其他航海ノ用ニ供スル設備ノ保存新築ノ費用ハ主トシテ船舶ニ課スル稅ヲ以テ支辨スルヲ通例トス然ラサルトモ公益ニ關スルモノニシテ是レ發ホ不動産ヲ變賣シタルトキ

租稅其他ノ公課カ優先權ヲ有スルト同一ナリ

第四 水先案内料及ヒ挽船料 挽船ハ船舶ヲ無難ニ海上ヨリ港内ニ撈入レンカ爲メニ用フルモノニシテ是レハ逆風暴風雨等ノ爲メハ船舶ニ損所アルカ爲メ必要ナルナリ水先モ航海不案内ナル所ニ在リテハ其緊要ナルコト挽船ニ譲ラサルカ故ニ此兩者ハ同列ニ置キタルナリ

第五 救拔並ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損 本號ニ屬スル債權ハ船舶ヲ海難ヨリ救フカ爲メニ生シタルモノナリ若シ此費用ヲ支出セザルニ於テハ船舶ハ沈没セシヤモ知ルヘカラス故ニ其債權者ハ船舶ニ必要ナル役務ヲ施シタル者ノ次ニ置クヲ以テ權宜ヲ得タリトス船舶カ負擔スヘキ共同海損ハ彙ニ第六百四十二條ニ於テ叙述シタレハ今復タ茲ニ叙述セザルナリ

第六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權 船長ハ航海繼續ヲ爲メ必要ナルニ於テハ船舶ヲ抵當ト爲シ借財ヲ爲シ積荷ヲ賣却又ハ質入スルコトヲ得又ハ積荷ヲ直チニ航海ノ用ニ供スルコトヲ得第五六八條第五七二條ルモノニシテ船長カ此等ノ行爲ヲ爲シタルトキハ積荷ノ所有者金員ノ貸主ハ船舶所有者

ニ對シテ債權ヲ有スルモノニシテ此債權ハ亦一種ノ保存費タルヲ以テ之ヲ第六順位ニ置キタルナリ然ルニ舊商法ニ於テハ本號ノ次ニ在ル債權船長及ヒ船員ノ債權ヲ本號ノ前ニ置キタレトモ本號ノ債權ナクシテハ船長其他ノ船員ノ債權モ亦之カ履行ヲ受クルコトヲ得タルヲ以テ本法ニ於テ彼此其順序ヲ顛倒シタルナリ

第七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權ニ先取特權ヲ與フルコトハ各國ノ法律皆同一ナリ是レ猶ホ民法ニ於テ雇人ノ給料ニ先取特權民法第三〇六條第三〇九條ヲ與フルト同シキナリ唯其順位ニ至リテハ異同アリト雖モ船長其他ノ船員ノ債權ハ就賣費保存費諸稅水先案内料及ヒ挽船料航海繼續費等ノ次ニシテ他ノ商取引ヨリ生スル所ノ債權ノ上ニ在ルハ各國皆一ナリ是レ海員ノ職業ヲ優遇シ且ツ其勤務ノ缺クヘカラサル性質ヨリ生スルモノナリ其第六號ニ先スルヲ得タルハ前號ニ於テ叙述シタルカ如シ又其第五號ノ債權ノ上ニ位スルコトヲ得タルハ當時若シ該債權者ノ救助アルニ非サレハ船員モ船舶ト共ニ沈溺シタル

ヤモ知ルヘカラサレハナリ其詳詳モ是レモハ各國商法第一式一節第八節第六號ニ屬スル債權ハ唯其ノ給料ノミナラス尙ホ自餘ノ債權モ雇傭契約ニ起リタルモノハ皆此中ニ屬ス例ヘハ滿期ニ至ラサル解雇ノ辨僱外國港ニ於テ解雇シタルトキ歸國旅費等是ナリ然レトモ是レ雇傭契約ニ起リタルモノニ限ルカ故ニ其契約ニ起リテ生シタル賞與金等ハ先取特權ヲ有スルモノニ非サルナリ

第八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ船殼ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ船殼食料並ニ燃料ニ關スル債權 船舶カ其賣買ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合トハ船舶ノ製造中又ハ製造後賣買セラレテ未タ一回モ航海ヲ爲ササル場合トハ勿論既ニ航海ノ用ニ供シタル船舶ト雖モ賣買ニ因リテ新所有者ニ移リテヨリ以來未タ航海ヲ爲ササルモノモ包含スルモノトス故ニ一旦航海ニ用ヒタル船舶ヲ賣却シ其買主カ代金ヲ支拂ハサルトキハ買主ノ所有ニ移リテヨリ以來未タ航海ヲ爲ササル間ニ在リテハ賣主ハ其代金ニ付テハ先取特權ヲ有ス船舶ノ製造並ニ船殼ニ因リテ生シタル債權モ船舶カ未タ航海ヲ爲ササル間ニ在リテハ其債

債權者亦先取特權ヲ有スルモノトス
 以上ノ債權者カ先取特權ヲ有スルハ船舶カ未タ航海ヲ爲ササル間ニ限ルモノ
 ニシテ此債權ノ生シタル後債權者カ其特權ヲ行使セザル前ニ於テ船舶カ航海
 ヲ爲シタルトキハ債權ハ依然タルモ其先取特權ノミハ直チニ消滅ス蓋シ船舶
 カ航海ヲ爲ササル以前ニ在リテハ船舶所有者ハ其船舶ニ付キ賣買製造修裝等
 ヲ行ハスル債權ノ外ハ多クハ他ノ取引關係ヲ生セザルカ故ニ航海ヲ爲ササル
 以前ニ在リテハ船舶ハ此等債權者ノミノ特別擔保タルヘシト雖モ一旦航海ヲ
 爲シタル以上ハ種種ノ取引關係ヲ生シ他ノ債權者ハ賣買製造修裝ニ關ス
 ル債權者カ其債權ノ支拂ヲ受ケスシテ出航セシメタルモノト思料セシテ取
 引スル者多シ然ルニ豈ニ圖ラシキ船舶ニ付キ出航以前ニ賣買製造修裝ニ關ス
 ニ因リテ生シタル債權アリテ先取特權ヲ有スルニ於テハ他ノ債權者ノ失望損
 失尠クナラサルナリ是ヲ以テ法律ハ以上ノ債權ハ船舶ノ航海ヲ爲ササル間ニ
 非ナレハ之ニ對シテ先取特權ナキモノト爲シタリ
 本號ノ債權者ヲ中賣主ニ先取特權ヲ與ヘタルハ佛國商法第一九一條第八號及

間ニ於テ破産財團及ヒ破産債權ノ確定ニ關スル手續アリ
 債權者ハ其債權確定ノ爲メニ之ヲ届出ツヘキコトヲ催告セラル届出ヲ爲ササ
 ル債權ハ破産手續ニ於テ尊重セラル所ト爲ラス届出ヲ爲シタル債權ハ債權
 調査會ニ於テ管財人及ヒ他ノ債權者カ調査シ異議ナキ場合ニ確定シ異議アリ
 タル債權ハ之ニ反シ異議ヲ排斥シタル債權者ニ利益ナル裁判ニ因リテ確定ス
 順位ノ確定ニ關シテ亦然リ届出ヲ爲シタル優先債權力債權カ優先權ヲ以テ
 及ヒ他債權者ヨリ承認セラレタルトキハ届出ヲ爲シタル債權カ優先權ヲ以テ
 擔保セラレタルモノト爲リ反對ノ場合ニ於テハ異議ヲ排斥シタル債權者ニ利
 益ナル裁判ニ因リテ優先權ヲ以テ擔保セラレタルモノト爲ル此債權及ヒ順位
 ノ確定ニ關スル裁判ハ何レモ通常民事訴訟手續ニ依リテ之ヲ爲ス而シテ舊思
 想ノ破産法ハ債權ノ確定及ヒ順位ノ確定ヲ別離シテ辯論セシメタリト雖モ新
 思想ノ破産法ハ此兩者ヲ併合シテ辯論セシムルコトヲ欲シタリ是レ費用勞力時
 間ヲ省略スルノ法意ニ外ナラス
 以上ノ觀念ニ從ヘハ破産債權確定手續ハ之ヲ届出手續調査手續其他異議ノ排

斥及ヒ其認可手續狹義ノ確定手續ノ三者ト爲スコトヲ得而シテ破産手續ヲ以テ民事訴訟ノ一種ト認メサル學者ハ狹義ノ確定手續ニ民事訴訟ノ手續ヲ認メ届出手續及ヒ調査手續ニ之ヲ認メナリシ(破産裁判所ノ行政的行動ト認メタリ)然レトモ届出及ヒ調査手續ナクシテ獨リ保爭債權及ヒ順位ノ裁判手續ノ存シ能フ所ニアラサルヲ以テ彼此性質ヲ異ニスト云フハ正當ノ見解ニアラス破産債權ノ確定手續ハ其全體ニ於テ民事訴訟ノ性質ヲ有スルモノナリ左ニ届出手續調査及ヒ承認手續並ニ狹義ノ確定手續ヲ略述スヘシ

第一款 届出手續

届出手續ハ債權ノ届出及ヒ債權表ノ調製ノ二者ヨリ成ル管財人及ヒ各破産債權者カ破産債權ヲ調査スルニ當リテハ互ニ之ヲ知ラサルヘカラス届出手續ハ此立法上ノ目的ヲ達スルカ爲メニ規定セラレタルモノナリ

(一) 債權ノ届出 各債權者ハ破産宣告ノ公告ニ因リ債務者ニ對スル破産手續開始ノ存在ヲ認識スルコトヲ得ヘキカ故ニ法律ハ該公告ニ因リ總破産債權者

カ破産宣告ノ決定中ニ定メラレタル期間内ニ於テ主任官ニ債權ノ届出ヲ爲スヘキ催告ヲ受ケタルモノト規定シタリ(第九八〇條第五項)獨逸破産法第一一〇條第一一一條

債權ノ届出ハ其訴ニアラスシテ却テ破産手續ニ加入スルコトヲ欲スル意思表示タリ此意思ハ破産主任官ニ對シテ之ヲ表示ス是レ主任官ハ破産手續ノ指揮及ヒ監督者タルノミナラス届出ト共ニ重要ナル書類ヲ交付スルコトアルカ爲メニ届出人ノ安全ヲ確保スルノ法意ナリ佛蘭西商法ハ裁判所書記若クハ管財人ニ又獨逸破産法ハ破産裁判所ニ對シ届出ヲ爲ス旨ヲ規定シタリ(第一〇三二條第一項)上段佛蘭西商法第四九一條第六〇三條獨逸破産法第一三九條

届出ノ方法ハ各破産債權者カ本人ニテ或ハ代人ニテ口頭又ハ書面ヲ以テ民事訴訟法第一三五條參考債權ノ原因金額優先權ノ外特ニ法文ナキモ當然債權者ノ氏名職業住所等ヲ明示シ且ツ證據書類若クハ其原本ヲ添附シテ之ヲ爲スニ在リ債權ノ原因ハ民事訴訟法第九十條ニ規定シタル請求ノ原因ヲ指示シ請求ノ金額ハ我帝國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示シ優先權ハ債權ヲ優先權ヲ以テ擔保

セラレタルモノトシテ取扱ハルヘキ旨ノ要求ノ爲メニ之ヲ表示ス(獨逸破産法第一三九條、第六九條、第六一條第一項乃至第五項)又證據書類添附ハ一ノ訓示的立法ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ受クルモ爲メニ届出ノ無効ヲ來スコトナク又爾後證書ノ使用ヲ妨クルモノニアラス代人タルニハ辯護士タルコトヲ要セス(獨逸破産法ハ區裁判所カ破産裁判所ナルヲ以テ届出ノ代人カ辯護士タルコトヲ要セザルハ疑ナシ我商法及ヒ裁判所構成法第二十八條ハ地方裁判所ヲ以テ破産裁判所ト爲シタルヲ以テ民事訴訟法第六十三條ノ準用ニ依リ理論上辯護士ニアラスンハ届出ヲ爲スコトヲ得スト謂ハサルヲ得ザルニ至ル然レトモ届出ノ如キ簡單ナル訴訟行爲ハ辯護士タルコトヲ要スト爲スハ鄭重ニ失スト認ムルヲ以テ斯ル論結ヲ爲シタリ)代人ノ委任ノ欠缺ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ調査シ(民事訴訟法第七〇條)且ツ其追完ヲ許スコトヲ得届出ノ變更殊ニ請求金額ノ増加他ノ原因若クハ新ナル優先權ノ表示等ハ新届出トシテ之ヲ取扱フ獨逸破産法第一四二條第二項)當然ナリ但シ書面ニテ届出ヲ爲スニハ管財人ニ其使用ノ必要上交付スルカ爲メニ別ニ謄本ヲ差出シ又口頭ニテ届出ヲ爲

ストキハ裁判所書記カ謄本ヲ調製シ之ヲ管財人ニ交付スヘキモノト信ス獨逸破産法第一三九條(第一〇二三條下段第一〇二四條第二項)佛蘭西商法第四九一條千八百八十九年三月四日法律(商事非訟事件)印紙法第一條第三條届出カ適法ナラサルトキハ主任官カ命令ヲ以テ之ヲ却下ス其命令ニ對シテハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得第九八三條)

届出ノ期間ハ破産ノ宣告決定中ニ於テ之ヲ定ム其期間ハ短クトモ三箇月長クトモ六箇月タリ但シ外國居住ノ債權者ニ對シテハ其距離ノ遠近ニ從ヒ届出ニ付キ特別ノ期間ヲ設ク是レ然ラスンハ難ヲ人ニ責ムルニ至ルヘケレハナリ此期間ノ起算點ハ我商法ニ於テ明文ナシ佛蘭西商法第四九二條ハ新聞ニ廣告ヲ爲シタル日ヨリ又獨逸破産法第七六條ハ公告カ其效力ヲ生シタル日ヨリ期間ヲ進行スト規定シタリ予輩ハ我破産法ノ解釋トシテ公告ノ日ヨリ起算スヘキモノト信ス蓋シ破産宣告ノ公告以外ニ於テ届出期間ノ起算點ヲ定ムルトキハ破産債權者ノ多クハ破産宣告ノ公告ニ依リ其存在ヲ認識シ得ヘキヲ以テ届出ノ全期間ヲ利用スルコトヲ得ザルニ至ラン又破産宣告ノ公告以後ニ於テ届出期間

ノ起算點ヲ定ムルトキハ故ナク破産手続ノ進行ヲ遅延スヘキヲ以テナリ破産宣告ノ決定ニ於テ定メラレタル届出期間カ短キニ失シ又ハ長キニ失シタルトキハ債務者管財人及ヒ各破産債權者ハ抗告ヲ以テ之ヲ變更セシムルコトヲ得商法施行法第一三八條第二項、獨逸破産法第七三條届出ノ期間ハ一ノ不變期間ニアラス故ニ(1)破産ノ宣告以後届出ノ期間ノ開始前ニ爲シタル届出ハ其期間内ニ爲サレタルモノト同シク有效タリ(破産ノ宣告ニ因リ届出ノ期間カ定メラレタルヲ以テ何等ノ害毒ナケレハナリ)但シ破産宣告以前ノ届出ハ總合其債權者カ既ニ破産ノ宣告アリタル旨ヲ誤信シテ善意ニテ届出テタル場合ト雖モ無効タリ蓋シ届出即チ破産手続ニ加入スルコトヲ欲スルノ意思表示ハ破産手続ノ開始ヲ前提トスルヤ當然ナレハナリ(2)届出期間ノ懈怠ニ對スル原狀回復ナシ民事訴訟法第一七四條又届出期間ハ裁判所カ伸縮スルコトヲ得民事訴訟法第一七〇條其他届出期間ハ其經過後債權ノ届出ヲ許ササル旨ノ除外期間ニアラス債權者ハ爾後有效ニ其債權ヲ届出ツルコトヲ得ヘシ蓋シ届出期間ノ懈怠ハ權利ノ拋棄又ハ其剝奪ニアラサレハナリ唯懈怠アルカ爲メニ其實ニ任シテ破産

手續ニ加入スルコトヲ得ヘキノミ是ヲ以テ届出期間經過後ニ於テ届出ヲ爲マタル債權者ハ其届出カ債權調査會開會ノ前又ハ其後ニ於テ爲サレタルカノ區別ヲ問フコトナク届出當時ニ於ケル破産手續進行ノ狀態ニ拘束セラレ又届出期間經過後ノ届出ニ因リテ特別ニ生シタル費用ヲ負擔スルノ損害ヲ受クルノミ故ニ調査會開會前ニ届出テタル場合ニ於テ實際上即時ノ調査ヲ爲スコトヲ得サルカ若クハ之ヲ爲スコトヲ得ルモ下調査ヲ爲スノ必要アルカ故ニ管財人若クハ破産債權者カ調査會ニ於ケル即時調査ニ付キ異議ヲ申立テタルトキハ債權者ハ自己ノ爲メニ開クヘキ新調査會ニ關スル費用ヲ負擔セリルヘカラス(新調査會ノ期日ハ商法第九百八十一條ニ基キテ公告スルコトヲ要スルヤ當然ナリ又届出以後ハ自己ノ債權ノ確定以後ニ於テ爲スヘキ配當ニ加入スルコトヲ得レトモ自己ノ債權ノ確定以前ニ於テ行ハルヘキ配當ヲ止ムルコトヲ得ス調査會開會前ニ届出テタル場合亦然リ唯即時ノ調査ニ關スル事項ナキノミ第一〇二、五條第四項、獨逸破産法第一四二條第三項、佛蘭西商法第五〇二條第五〇三條届出ヲ爲ササル債權者ハ配當ニ加入スルコトヲ得サルニ止マリ破産者ノ

債權者タルコトヲ妨ケラレズ故ニ破産者ニ對シテ自己ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘシ然レトモ之カ爲メニ他ノ破産債權者ノ破産財團ニ對スル權利ヲ害スルコトヲ得ス又協諾契約ヲ無視スルコトヲ得ス蓋シ若シ然ラストセハ大ニ協諾契約ノ鞏固ヲ害スルニ至ルヲ以テナリ佛蘭西商法第五一六條

債權者ハ破産宣告ノ公告ニ依リ當然届出ノ催告ヲ受ケタルモノト看做サルト雖モ所在ノ知レタル債權者ニ對シテハ特別ノ保護方法トシテ裁判所ヨリ特別ノ書面ヲ以テ債權ノ届出ヲ催告スルコトアリ但シ特別ノ保護ナルカ故ニ書面ノ違セサルトキハ勿論裁判所ニ於テ之カ手續ヲ爲ササルコトアルモ裁判所ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ破産債權者ハ破産宣告ノ公告ニ依リ其債權ノ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ知ルカ故ニ之カ爲メニ損害賠償ノ請求權ヲ認ムルノ理ナキヲ以テナリ其他他所居住ノ債權者ハ債權届出ト同一手續ヲ以テ裁判所所在地ニ代人ヲ設置シ以テ破産手續ノ進行ヲ便ナラシムヘシ(第一〇二三條第二項及ヒ末項民事訴訟法第一四三條商事非訟事件印紙法佛蘭西商法第四九二條)

適法ナル債權ノ届出ハ破産者及ヒ破産債權者團體ニ對シ其届出債權ノ時効中斷ノ效力ヲ生ス此中斷ハ破産手續ノ終局配當及ヒ協諾契約及ヒ其停止第九八二條ニ至ルマテ存續シ届出ヲタル債權カ管財人破産債權者等ヨリ異議ヲ申立テラレタル事實ニ因リ終了セス又届出債權者ト異議申立者トノ間ニ於テ起リタル異議ノ目的タル債權ニ關スル訴訟カ終了シ若クハ中斷シ中止シ或ハ休止シタルノ事實ニ因リテ終了セス但シ届出債權者ト異議ノ目的タル債權ニ關スル訴訟カ破産手續ノ終了ノ當時未タ歸屬シテ終局セサルカ爲メニ該債權ニ對スル配當額ヲ供託シテ破産手續ヲ終了シタルトキハ其效力ヲ破産手續ノ終局以後ニ於テモ尙ホ存續シ該訴訟カ確定判決其他ノ方法ニ依リ終局スルニ因リテ終了ス(民法第一四七條第一五二條第一五七條獨逸民法第二〇九條第二一一條第二一四條獨逸破産法第一六八條第一項)

債權者ハ其届出ヲ破産手續ノ終了ニ至ルマテ有效ニ取下クルコトヲ得届出ノ取下ハ届出ト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲シ又届出債權ノ時効中斷ナカリシモト看做スノ效力ヲ有ス(民法第一五二條)取消……獨逸民法第二一四條第二

項但シ同一債權ニ關スル再度ノ届出ヲ妨ケス「エツケル」氏カ調査期日ニ於テ承認アリタル後ニ爲シタル届出ノ取下ハ再度ノ届出權ヲ抛棄シタルモノナリト主張スレトモ正當ノ見解ニアラサルヘシ

破産ノ宣告カ抗告裁判所ニ於テ廢棄セラレタルトキハ債權ノ届出ハ其效力ヲ喪失シ且ツ其時效中斷ナカリシコトト爲ルハ言ヲ埃ダス獨逸ノ「ブランク」氏カ其著民法註釋ニ於テ單純ナル條理ヲ理由トシテ反對ニ論結シタルハ贊成スルコトヲ得ス

(二) 債權表ノ調製 債權ノ届出アリタルトキハ主任官ハ第一〇二三條第一項「破産主任官ニ……」裁判所書記ヲシテ(獨逸破産法第一四〇條順次ニ番號ヲ付シテ通常債權表ト優先權アル債權表トヲ調製セシム是レ届出債權ヲ一目錄然ニ記載シ一面ニ於テ届出ノ結果ヲ利害關係人ニ知ラシメ他ノ一面ニ於テ調査手續ノ材料及ヒ配當案作成ノ材料ニ供シ殊ニ配當ノ實施ニ際シ債權證書ノ代用ヲ爲サシムルノ目的ニ出テ(第一〇四七條故ニ該債權表ハ調査期日ニ於ケル調査ノ準據書面トシテ或ハ追加ヲ受ケ或ハ抹消セララル所アリ其他該債權表

ハ其性質上調査會開會前ニ公衆ノ展覽ニ供スルカ爲メニ裁判所書記課ニ備ヘ且ツ其謄本ヲ届出書ノ謄本ト共ニ管財人ニ交付シ其職務ノ施行ニ便ナラシム(第一〇二四條)獨逸破産法第一四〇條貸借對照表ノ外ニ債權表ヲ調製スル理由ハ貸借對照表カ商業帳簿ノ沿革ニ外ナラサルヲ以テ金額ノ多少等ニ粗漏ナキコト能ハサルヲ以テナリ

第一款 調査手續

執行名義ヲ有セタル債權ハ破産手續ニ於テ一ノ執行名義ヲ有スルニ因リテ破産の執行ニ參加スルコトヲ得又執行名義ヲ有スル債權ト雖モ適法ノ方法ニテ攻撃セラルルトキハ破産の執行ヨリ除外セラル此兩者ノ爲メニ債權ノ届出ニ基キテ行ハルル特別手續アリ之ヲ調査手續ト稱ス又届出テタル債權カ債權調査會ニ於テ管財人又ハ債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ヨリ異議ヲ申立テラレナリシトキハ承認ニ因リテ又ハ異議ノ申立アリタルトキハ其異議ヲ排斥シタル判決ニ因リテ確定ス

(一) 債權ノ調査 破産債權ノ調査ハ債權調査會ニ於テ之ヲ爲ス債權調査會ハ裁判上ノ監督ノ下ニ在ル債權者自衛主義ノ適用トシテ破産手續ノ指揮及ヒ監督ヲ爲ス職分アル破産主任官ヲ議長トシ管財人各破産債權者及ヒ破産者ヲ以テ構成シ破産宣告ノ決定ヲ以テ定メタル期間ニ開會シ且ツ其手續ハ口頭ナリ調査會ハ通常届出期間ノ満了後十日乃至十五日間内ニ開會ス斯ル時間ヲ存スヘキ理由ハ一面ニ於テハ債權調査ノ準備ノ爲メニ他ノ一面ニ於テハ調査會ノ開會ヲ延滞セシメサルノ法意ニ外ナラス(第一〇二五條第三項第九八〇條第六號獨逸破産法第一三八條第二項)隨テ裁判所ハ破産宣告ノ決定ヲ爲スニ際シ斯ル時間内ニ於テ期日ヲ指定セサルヘカラス(第九八〇條第六號獨逸破産法第一〇一〇條第一項)調査會ノ期日ノ指定カ近キニ失シ又ハ長キニ失シタルトキハ利害關係人ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得又該申立却下ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

破産主任官ハ議長トシテ調査會ニ於ケル手續ヲ指揮ス故ニ主任官ハ調査期日ヲ開始シ又ハ之ヲ終結ス(第一〇二五條第一項)管財人ハ債權調査ノ主任者

トシテ又破産當事者全體ノ利益ノ爲メニ意見ヲ陳述スル目的ニテ調査會ニ列席セサルヘカラス管財人ノ列席ナクシテ調査期日ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス然レトモ之カ爲メニ管財人ハ其他代理人ヲシテ調査期日ニ列席セシムルコトヲ得サルモノト速断スヘカラス但シ主任官ハ管財人自身ノ列席ヲ必要ナリト認メタルトキハ其指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ自身出頭ヲ命スルコトヲ得ヘシ獨逸破産法第八三條其他主任官ハ指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ管財人カ調査期日ニ出頭スルコトヲ得サル事實ヲ適法ニ豫知シタルトキハ職權ヲ以テ該期日ヲ變更スルコトヲ得此場合ニ於テ期日ノ變更及ヒ新期日ヲ公告セサルヘカラス又主任官ハ調査期日ヲ開キタル後管財人カ出頭セサルトキハ職權ヲ以テ延期ヲ爲ス此場合ニ於テハ新期日ヲ言渡シタルモノナルヲ以テ新ニ公告ヲ爲スノ要ナシ民事訴訟法第一六一條準用獨逸民事訴訟法第二一八條準用各破産債權者ハ自衛方法トシテ自己ノ利益ノ爲メニ自己ノ債權ヲ主張シ又他人ノ債權ヲ攻撃スルカ爲メニ自己又ハ代人ニテ調査會ニ參加スルコトヲ得而シテ調査手續ハ訴訟上ノ口頭辯論ニアラサルカ故ニ辯護士ニアラサル者ヲ尙ホ代

理人トシテ選定スルコトヲ得又禁止の明文ナキヲ以テ管財人ヲ代理人ニ選定スルコトヲ得唯此場合ニ於テハ管財人ノ職務カ債權者一箇人ノ代理人トシテノ責任ノ爲メニ不公平ニ流ルルノ嫌アルヲ以テ管財人自身カ破産債權者タル場合ト同シク管財人タル行爲ヲ避クヘキノミ但シ債權者ノ出頭ハ調査期日維持ノ要件ニアラザルヲ以テ綜合届出ヲ爲シタル債權者カ出頭セザル場合ト雖モ其届出テタル債權及ヒ優先權ヲ調査スルコトヲ得ヘシ第一〇二五條第一項獨逸破産法第一四三條破産者ハ成ルヘク調査會ニ參與セシム(第一〇二五條第一項是レ調査ノ参考上其意見ヲ聽キ又債權ノ成立及ヒ數額等ニ付キ即時訊問ヲ爲スコトヲ得セシムルカ爲メナリ成ルヘク參與セシムルモノトシテ必ス參與セシメサルハ逃走等ノ爲メニ破産者ノ參與不能ノ事情アルカ爲メナリ破産者ノ出頭ハ此ノ如ク調査期日維持ノ要件ニアラザルヲ以テ主任官ハ破産者カ出頭セザルトキト雖モ債權ノ調査ヲ爲スコトヲ得而シテ破産者自身ノ出頭ヲ調査上必要ナリト認メタルトキハ之ニ出頭ヲ命スルコトヲ得第一〇二二條第一〇〇三條第三項獨逸破産法第一〇〇條第一〇一條第一四一條第二項其他主

任官ハ必要ナル認識ヲ得セシムルコト能ハサル代理人ヲシテ調査期日ニ出頭セシメタルトキハ之ニ自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ得ヘシ主任官ノ有スル監督權ノ作用タリハハ破産者ノ調査手續ハ届出テタル債權及ヒ優先權ノ存否及ヒ數額ヲ明瞭ナラシムルコトヲ目的トス而シテ該目的ヲ達スルカ爲メニハ各利害關係者タル破産債權者及ヒ管財人ニ質問及ヒ辯解ヲ爲サシメ又破産主任官ニ自由ナル審問權ヲ認メザルヘカラス此等ノ質問辯解及ヒ審訊ハ口頭ニアラスンハ迅速ニ爲スコトヲ得ナルヲ以テ調査手續ノ口頭タルヤ疑ナシ届出テタル債權ハ主任官カ其原因數額及ヒ優先權ヲ指示シ管財人及ヒ出席シタル破産債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ表示スヘキ旨ヲ催告シテ調査スルモノタリ管財人ハ破産債權者團體ノ機關トシテ異議ヲ申立ツルコトヲ得蓋シ破産手續ニ參加スルノ權利ナキ旨ノ參加又ハ優先權ヲ有セサル債權者ノ優先的主張ハ破産債權者團體ノ權利ヲ害スルヲ以テナリ破産債權者ノ團體ハ破産債權者各箇人ト同シカラス故ニ管財人カ破産債權者各箇人ノ届出ノ債權ニ對シ異議ヲ申立ツルモノナリトノ立論ヲ打

破スルモノニアラス面シテ管財人ノ爲ス異議ハ通常届出テタル債権カ破産債権ニアラザルコト該債権ノ全部又ハ一部カ既ニ消滅シタルコト(殊ニ相殺ニ因リテ又該債権ハ商法第九百九十條以下ノ規定ニ從ヒテ無效又ハ取消スヘキモノタルコト)ト原因ト爲スモノタリ然レトモ調査會ニ於テ異議ノ理由ヲ明示スルコトヲ要セス蓋シ異議ノ理由ハ狹義ノ確定手續進行中ニ於テ明示スヘキモノナレハナリ故ニ異議申立者ハ調査會ニ於テ主張シタル以外ノ理由ヲ狹義ノ確定手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ管財人ハ其届出ラタル自己ノ債権ニ付キ自ラ調査ヲ爲スコト能ハザルヲ以テ該債権ニ對スル承認及ヒ異議申立ハ主任官カ管財人ニ代リテ爲スモノトス多數ノ管財人アル場合亦然リ何トナレハ甲管財人ノ有スル届出債権ヲ他ノ乙管財人ノミニテ調査スルコトヲ得ルモノト爲セハ多數ノ管財人ヲ設ケタル趣旨ニ反スルノミナラス管財人間ニ於ケル情實ニ因リ不公平ニ流ルルノ弊害ヲ來スヲ以テナリ而シテ主任官ハ破産手續ノ指揮及ヒ監督者トシテ調査會ノ議長タルカ故ニ前示ノ場合ヲ除テ外自ラ承認ヲ爲シ又ハ異議ヲ申立ラズルノ職權ナシ唯指揮及ヒ監督權ノ作用トシテ債権ノ調

査上必要アルトキハ證書ノ外ニ取引帳簿ヲ提出セシメ證書アリト雖モ爾後ノ辨濟ニ因リ之ヲ帳簿ニ記入スルコトアレハナリ又浩瀚ニシテ其提出ニ便ナラザルトキハ其抜萃ヲ提出セシメ或ハ破産者等ヲ訊問スルノ權限ヲ有ス第一〇二六條第二項第一〇二五條第二項第一〇二二條佛蘭西商法第四九三條獨逸破産法第一四四條第一項)

債権カ確定シ又ハ貸借對照表ニ掲ケラレタル債権者ハ届出ラレタル債権及ヒ優先權ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利ヲ有ス各債権者ノ異議ハ總テノ利害關係アル破産債権者ノ利益ト爲ル蓋シ異議カ其當ヲ得テ届出テタル債権者カ破産手續ニ於ケル參加若クハ優先ノ満足ノ要求ヲ排斥セラレタルトキハ他ノ總テノ破産債権者ハ比較的多額ノ配當額ヲ受タルニ至ルヲ以テナリ然レトモ之カ異議ヲ申立テタル債権者ハ破産債権者團體ノ代理人ナリト逆斷スヘカラス該債権者ハ破産財團上ニ満足ヲ要求スル自己ノ權利ニ基キテ異議ヲ申立ツルモノニシテ他ノ破産債権者カ之ニ因リテ利益スル所アルハ反射的效力タルニ過キス債権カ確定シ又ハ貸借對照表ニ掲ケラレタル債権者ノミカ異議ヲ申

立ツル權利ヲ有シ他ノ債權者カ之ヲ有セサルハ(第一〇二六條第二項佛蘭西商法第四九四條蓋シ自稱破産債權者ノ容隠ヲ防止シ無責任ノ異議ヲ避クルノ法意ナルヘシ)債權調査會開會ノ當初ニ於テ債權ノ確定シタル債權者ハ縱令貸借對照表ニ記載ナク單ニ届出ノ上確定シタルモノニ過キスト雖モ確實ナル破産債權者タリ又貸借對照表ニ掲ケラレタル債權者ハ調査ノ順番カ後ナルモ)少クトモ債權者ト推定スルコトヲ得ヘキモノタリ故ニ法律ハ此二者ニ限リテ届出債權ニ關スル承認ヲ爲シ又異議ヲ申立ツル權利ヲ認メタリ千八百七年佛蘭西商法ハ債權ノ確定シタル債權者ノミニ斯ル權利ヲ認メタリシカ違ハ債權調査會開會ノ當初ニ於テ未タ確定セル債權ナキ爲メ或ハ甚タ少數ナルカ爲メニ債權ノ調査ニ付キ何等ノ辨明ヲ爲スコトナクシテ進行スルノ奇觀アルヲ以テ現行商法ニ於テ少クトモ債權者ト推定スルコトヲ得ヘキ者即チ貸借對照表ニ記載シタル債權者ニ異議申立權ヲ認メタルナリ佛蘭西商法第五〇四條、埃太利破産法第一一九條)

債權者ハ異議ヲ申立ツルノ權利ナシ債權ヲ届出テタル債權者ハ其權利ヲ破産手續ニ於テ主張セサル者ナリ故ニ破産手續上ノ行動タル異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ナルヤ當然ナリ隨テ届出ヲ爲シタル債權者カ其届出ヲ取下ケタルトキハ其届出以前ニ爲シタル異議ハ當然其效力ヲ喪失ス又債權調査會ニ出席セザル届出債權者ハ異議申立權ヲ放棄シタルモノト看做スベキヲ以テナリ適法ニ即チ口頭ニテ異議申立ヲ爲サザリシ者ナレハナリ

(5)貸借對照表ニ掲ケラレタル債權未確定ノ債權者ノ爲シタル異議ハ爾後該債權者ノ債權カ其之ニ對スル異議ノ結果トシテ起サレタル確認訴訟ニ基ケル確定判決ヲ以テ否認セラレタル場合ニ於テ當然無効ト爲ル何トナレハ異議ヲ申立テタル債權者ハ其債權ヲ否認セラレタル判決ノ確定ニ因リテ異議申立ノ權利ヲ喪失スレハナリ故ニ異議ヲ申立テラレタル債權者ト異議ヲ申立テタル債權者トノ間ニ繫屬セラレタル確認訴訟カ未タ終局セザルトキハ後者ノ債權ヲ否認シタル確定判決ニ因レル異議申立權ノ喪失ヲ理由トシテ異議ヲ申立テラレタル債權者ノ利益ノ爲メニ異議ヲ排斥スルコトヲ得ヘシ然レトモ異議ヲ申

立テラレタル債權者ト異議ヲ申立テタル債權者トノ間ニ繫屬セラレタル確
 訴訟カ前者ノ不利益ニ於テ終局シタル後即チ異議ヲ正當ト認メタル判決確定
 ノ以後ニ於テ異議ヲ申立テタル債權者ノ債權ヲ否認シ異議申立ノ權利ヲ喪失
 セシムル判決アリタル場合ニ於テハ該判決ヲ前示異議ヲ申立テラレ且ツ不利
 益ノ判決ヲ受ケタル債權者ノ利益ニ採用スルコトヲ得ス是レ確定判決ノ效力
 ノ然ラシムル所ナリ

(3) 優先権アル債權者ハ唯自己ノ權利ニ損害ヲ及ホスヘキ債權及ヒ優先権ニ對
 シテノミ異議ヲ申立ツルコトヲ得故ニ優先権アル債權者トシテ確定セラレタ
 ル債權者ハ單純ナル届出債權者クハ自己ヨリ劣等ノ順位ニ在ル優先権及ヒ債
 權ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス「エツケル」¹「ベール」等ハ優等ノ順位
 ニ在ル優先権ヲ有スル債權者ト雖モ不當ナル債權ニ對シ異議ヲ申立テ債權者
 集會ニ加ハリテ行動スルコトヲ防クノ利益ヲ有スルヲ理由トシテ反對ニ論結
 スレトモ子輩ハ「ゾキフニエル」²氏ト共ニ斯ル見解ヲ排斥ス蓋シ斯ル利益ハ異議
 ヲ許スカ爲メニ甚タ不十分ナレハナリ

各破産債權者ノ爲ス異議ハ通常届出債權カ破産債權ニアラザルコト届出債權
 ノ全部又ハ一部カ既ニ消滅シタルコトヲ原因トス然レトモ管財人ノ爲ス異議
 ト異ニシテ届出債權カ商法第九百九十條以下ニ規定シタル法律行爲ヨリ發生
 シタルモノナルコトヲ原因ト爲スコトヲ得ス何トナレハ該條ニ基ク行爲ノ無
 效及ヒ取消ノ主張ハ管財人ノ專屬ノ權限ナレハナリ但シ債權者ハ管財人ト同
 シク異議ノ理由ヲ調査會ニ於テ明示スルコトヲ要セス佛蘭西法系諸國ノ立法
 例ニ於テハ佛蘭西商法第四九四條伊太利商法第七六三條白耳義商法第五〇三
 條等破産者モ亦破産債權者ト同シク破産債權者ニ對スル利益防禦ノ爲メニ異
 議申立權ヲ認メタリ我商法ハ獨逸破産法第一四四條第一項ト同シク破産者ヲ
 シテ參考ノ爲メニ意見ヲ陳述スルコトヲ得セシムルノ外何等ノ權利ヲ認メス
 (第一千二十六條第二項ニ破産者ヲ規定セザルヲ以テ瞭然タリ)蓋シ破産者ニ
 異議申立權ヲ認ムルトキハ故ラニ無責任ノ異議ヲ提出シ破産手續ノ紛擾及ヒ
 延滞ヲ來スノ虞アルノミナラス破産者ノ權利ヲ害セザル方法ニ於テ破産債權
 者ノ團體ニ共同満足ヲ得セシムル管財人ノ職分ヨリシテ破産者ノ利益カ適當

ニ保護セラルルヲ以テ破産者ニ異議申立權ヲ認ムルノ要ナシトノ理想ニ基ケルモノナルヘシ但シ破産者カ債權調査會ニ於テ届出債權ノ成立及ヒ效力等ニ付キ争ヒタルトキハ破産手續終結後破産手續ニ於ケル債權ノ確定ニ因リテ債權者カ破産者ニ對シ直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルヘシ其詳細ハ調査ノ結果ノ説明ニ當ラン

以上説明シタル異議申立權者ハ債權調査期日ニ於テ異議ヲ申立テシト欲スル各債權ノ辯明ノ終局以前ニ口頭ヲ以テ異議ヲ申立テサルヘカラス該辯明手續完了以後ニ於テハ異議ヲ申立ツルコトヲ許サス調査期日ニ出席セサル債權者ト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス而シテ異議ヲ申立テラレタル債權及ヒ優先權ニ關シテハ其債權者カ調査期日ニ出席シタルトキニ限り一ノ善良ナル和熟ヲ爲サンムルカ爲メニ適當ナル取扱ヲ爲スコトヲ得殊ニ主任官ハ斯ル目的ノ爲メニ遲滯ヲ生セサル限ニ於テ證據調ヲ命スルコトヲ得但シ主任官ハ之カ爲メニ證據調ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ證據決定ヲ以テスル取調ハ手續ノ進行ニ付キ延滞ヲ來スヲ以テナリ總テノ届出債權及ヒ優先權ノ調査ヲ一日間

ニ完了スルコトヲ得タルトキハ獨逸破産法ニ於テハ民事訴訟法第百三十三條第三項及ヒ第二百六條ノ準用トシテ債權調査ノ續行期日ヲ指定シ且ツ之ヲ言渡スヘキモノトシ呼出及ヒ公告ハ之ヲ要セサルモノノ如シ佛蘭西商法第百四九三條及ヒ我商法草案理由書ニ依レハ別ニ期日ヲ定ムルコトナク翌日ニ續行シテ調査ヲ完了セシムルモノノ如シ是レ記憶ヲ去ラシメサルト且ツ破産手續ノ迅速終局ヲ欲スルトニ基因スルモノト思ハル我商法ニ於テハ特ニ明文ナシト雖モ草案理由書ノ如キ法意ナリト認ム其他異議ハ調査期日ノ終了以後ニ於テモ尙ホ書面又ハ口頭ニテ(民事訴訟法第一三五條取消スコトヲ得ヘシ)

調査會ノ適式ナルコトト調査手續進行ノ大要トヲ證センカ爲メニ調査調査書ヲ作成スヘキコトハ佛蘭西及ヒ獨逸ノ破産手續ニ於テ認メタル所ナリ佛蘭西商法第百四九三條第百四九五條獨逸破産法第七二條第一四五條調査書ハ主任官ノ指揮ノ下ニ於テ裁判所書記ノ作ル是レ調査ノ信用力ヲ保ツノ法意ナリ其之ニ記載スヘキ事項ハ法律上明文ナシト雖モ民事訴訟法第百二十九條第一項乃至第四項第百三十條第一項第二號ノ準用ニ基テ事項證書ノ送付其他佛蘭西商

第四百九十五條ニ規定シタル事項殊ニ債權者ノ氏名住所證書ノ概要塗抹、有無承認否認即チ調査ノ結果ヲ記載スルコトヲ要ス何トナレハ調査ハ證書ヲキカ若クハ證書アリタルモ後日紛失シタル場合ニ於テ之カ代用ヲ爲スヘキモノナレハナリ(第一〇二五條)

(二) 調査ノ結果 調査ノ結果ハ各届出債權ニ對スル承認及ヒ異議ノ二者タリ債權調査會ハ斯ル結果ヲ生セシメタル後ニ於テ終了ス是レ其目的ヲ達シタルヲ以テナリ而シテ債權調査會ノ終了ハ之ヲ調査ニ記載セサルヘカラス何トナレハ道ハ該會ノ終了ニ關スル證明ノ最モ主タルモノナルヲ以テナリ(第一〇二五條)……又ハ調査會ノ終リタル後……證明材料ト爲ル獨逸破産法ハ調査ノ結果ヲ債權表ニ記入スルニ因リテ調査手續ノ終了ヲ告グルモノト爲シタリ左ニ承認ト異議トヲ略述スヘシ

(A) 承認 承認トハ届出債權ニ對シ異議ヲ申立ツル權利ヲ有スル者カ主任官ノ面前ニ於テ各届出債權ニ付キ破産的執行權ノ存在ヲ是認スルノ行爲ナリ故ニ其性。費ハ裁判上ノ認諾ニシテ即チ單獨の訴訟行爲ニシテ佛蘭西法曹ノ主眼

スルカ如ク破産機關ト届出債權者トノ間ニ締結セラレタル裁判上ノ契約ニアラス承認ノ方法ニ明示及ヒ默示ノ別アリ異議申立權者カ調査期日ニ於テ特定ノ届出債權ニ付キ破産的執行權ノ存在ヲ是認スル旨ヲ明示シタルトキハ明示ノ承認ト爲リ調査會ニ於テ出席シタル異議申立權者カ異議ヲ申立テサルトキ又ハ之ヲ申立テタルモ適法ニ取消シタルトキハ默示ノ承認ト爲ル異議ハ調査會ノ終結以後ニ於テモ尚ホ有效ニ取消スコトヲ得ルハ前述シタル所ナリ(第一〇二六條第一項第二項第一〇二七條獨逸破産法第一四四條第一項佛蘭西商法第四九七條届出債權ノ承認ニハ異議ノ申立ナキノミヲ以テ足レリトシ承認セラルヘキ届出債權ノ債權者カ調査期日ニ出席シタルコトヲ必要トセス届出債權ハ斯ル債權者ノ出頭ヲ要セスシテ調査スルコトヲ得レハナリ然レトモ二人以上ノ管財人アリテ此等ノ者カ異議ノ申立ヲ爲ササルコトニ一致セザルトキハ默示ノ承認ノ成立ヲ害スルモノナリ蓋シ異議ノ申立ヲ爲サント欲スル管財人カ他ノ管財人ノ意思ニ制限セラレ而モ異議ノ申立ヲ爲サナリシニ因リテ生タル損害賠償其他ノ責任ヲ共ニ負フヘキコトハ大ニ不當ナレハナリ殊ニ斯

ル場合ニ於テハ管財人カ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス唯之カ爲メニ責任ヲ生シタルトキハ管財人間ニ於テ損害賠償ノ責任問題ヲ惹起スノミト云ヘル學說ハ採用スヘカラス承認ハ單獨ノ訴訟行爲ナルヲ以テ意思ノ表示ニ因リテ完成ス而シテ證明ノ爲メニ調査調査ニ之ヲ明記スルハ當然ナリ(民事訴訟法第一三〇條第一號準用)獨逸破産法ハ調査ノ一部タル債權表ニ異議ナキコトヲ記載スルニ因リテ承認ヲ完全ニ成立セシメタリ(獨逸破産法第一四五條裁判上ノ認諾ハ其效力トシテ確定力ヲ有スルカ故ニ獨逸破産法第一四五條第二項)ハ届出債權ニ關スル承認ハ總テノ破産債權者ニ對シテ確定判決ト同一ノ效力アラシメタリ我商法ニ於テモ承認ヲ判決ト同一地位ニ置キ以テ之ニ確定力ヲ認メタルコトハ商法第千二十六條第一項ノ明文ニ徴シ甚タ瞭然タリ是ヲ以テ(1)承認ニ因リ届出債權利ノ確定シタル債權者ハ他ノ破産債權者及ヒ管財人ニ對シ該債權利ヲ確定判決ニ因リテ確定シタルモノト同一ニ取扱ハシムヘキ旨ヲ主張スルコトヲ得又爾後承認セラレタル債權利ヲ認メサル者アルトキハ之ニ對シ一事不再理ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得又他ノ破産債權者及ヒ管財人ハ承認ニ因リ届出債權利

ノ確定シタル債權者カ新ニ爾後數額ヲ増加シテ同一債權ノ届出ヲ爲シ同一原因ニ基テ損害賠償請求權ノ金額ヲ増加スルカ如キ又優先權定キモノトシテ確定セラレタル債權ニ付キ新ニ優先權アル旨ヲ主張シタル場合ニ於テ確定力ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得(2)承認ニ因リ届出債權利ノ確定シタル債權者ハ他ノ破産債權者ニ對シ破産手續ニ從ヒテ満足ヲ享有スルノ權利ヲ有シ又他ノ各破産債權者及ヒ管財人ハ確定シタル請求ニ對スル異議ノ訴若クハ再審ノ訴ヲ以テスルニアラスンハ承認ニ因リテ確定シタル債權利ヲ攻撃スルコトヲ得ス確定シタル請求ニ對スル異議ノ訴ニ關シテハ民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ヲ準用スヘキモノナルヲ以テ異議ノ原因カ調査期日ノ終了以後ニ發生シ且ツ數箇アルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス又該訴訟ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス(民事訴訟法第五六三條再審ノ訴ニ關シテハ民事訴訟法第四百六十七條ノ規定ニ依ル但シ承認ニ因リ届出債權利ノ確定シタル債權者モ亦其確定ノ效果カ自己ノ不利益ニ歸スルトキハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルヤ當然ナリ而シテ此等ノ訴カ提起セラレタルトキハ民事訴訟法第五百條第五百四十七條ニ

則リ執行即チ支拂ヲ停止ス債權者ハ調査期日ニ出頭セス且ツ異議ヲ申立ツルコトヲ得ナリシコトヲ理由トシテ承認ニ因リ確定シタル權利ヲ攻撃スルコトヲ得ス蓋シ原狀回復ノ申立ハ天災其他避クヘカラサル事變ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ許サルヘキモノナレハナリ(佛蘭西商法ニ於テハ承認ハ判決ニアラス隨テ確定力ナシ故ニ承認ニ錯誤ノ存シタルヲ理由トシテ民法上ノ原則ニ基キ承認シタル債權ヲ動スコトヲ得又ハ其數額ニ増減ヲ爲スコトヲ得ト云ヘル説ト承認ハ利害關係人ノ認諾若クハ裁判上ノ契約ニ同シ是レ承認以後ニ於テ債權ノ攻撃ヲ許ストキハ各債務者ノ地位カ不確定ニシテ安全ニ清算ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ承認以前ニ取消若クハ解除ノ原因ヲ主張スルコトヲ懈怠シタル者ハ爾後之ヲ主張スルコトヲ得ス承認セラレタル債權ノ全部又ハ一部カ消滅シタルコトヲ主張スルコトヲ得ス錯誤ヲ理由トスルモ亦然リ但シ承認カ詐欺若クハ強暴ニ因リテ成立シタルカ又ハ公ノ秩序ニ反スル所アレハ爾後承認セラレタル債權ヲ攻撃スルコトヲ得蓋シ前者ノ場合ニ於

テハ利害關係者ニ不注意ノ責ムヘキモノナク後者ノ場合ニ於テハ裁判上ノ契約タルカ故ニ公ノ秩序ニ反スルコトヲ得サルヲ以テナリト云ヘル説トノ二者アリ前説ハ「ボアスタル」氏及ヒ舊判例ノ採リタル所ニシテ後者ハ「リオンカン」氏及ヒ新判例ノ採リタル所ナリ

破産者カ債權調査會ニ於テ爲シタル破産債權ニ關スル認諾ノ有無ハ該債權ノ承認ニ因ル確定其モノニ何等ノ影響スル所ナシト雖モ理論上破産手續終結以後ニ於ケル取立權ニ影響スルヲ當然トス蓋シ破産者カ調査期日ニ於テ認諾セサル旨ヲ表示シタル破産債權カ承認又ハ後述スル所ノ異議ヲ排斥シタル確定判決ニ因リテ確定シタルヲ理由トシテ破産手續終結以後破産者ニ對シ直チニ執行ヲ爲スコトヲ得ルノ名義ト爲ルハ破産者ノ權利保護ニ甚タ薄シト謂ハサルヘカラサルヲ以テナリ是ヲ以テ獨逸破産法ハ破産者カ調査期日ニ於テ或届出權利ヲ認諾シ若クハ之ヲ争ハサルトキハ破産手續ニ從ヒテ確定シタル債權ノ確定カ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スト規定シタリ故ニ債權者ノ爲メニハ破産手續終結以後破産者ニ對シ無限ニ強制的執行ヲ爲スノ執行名義

ト爲リ又債務者ニ對シテハ再審ノ訴若クハ確定シタル請求ニ關スル異議ノ訴
 (民事訴訟法第四六七條以下第五四五條ヲ以テスルニアラス)ハ攻撃スルコト
 能ハサルノ效力ヲ有ス(獨逸破産法第一六四條第二項第一九四條第二〇六條第
 二項)我商法第四十九條ニ於テハ破産手續ノ終局以後債務者ニ對シ無限ニ執
 行ヲ爲スニ付キ債務者カ届出權利ニ關シ争ヒタルヤ否ヤノ區別ヲ問ハサルニ
 似タリ是レ後述ノ如ク管財人ヲ以テ破産者ノ代理人ト看做ス思想ニ基因スル
 モノニシテ立法上其當ヲ得サルモノト謂フヘシ元來破産者カ調査期日ニ於テ
 爲シタル届出債權ニ關スル認諾ハ其性質上裁判上ノ認諾ナリト雖モ自己ニ對
 スル執行手續ニ於ケル認諾ニシテ自己ニ對シテ繫屬シタル訴訟手續ニ於ケル
 認諾ニアラス故ニ破産者ニ對スル執行名義タルノ效力ナク唯將來破産者ニ對
 シ起スヘキ訴訟ニ於テ該認諾ヲ裁判上ノ認諾トシテ援用シテ認諾判決ヲ受ク
 ルコトヲ得ヘキノミ然レトモ費用勞力及ヒ時間ヲ省略スル目的ヲ以テ破産手
 續ニ從ヒテ債權カ確定シタルトキハ斯ル認諾ニ認諾判決ニ於ケルト同シ執
 行名義及ヒ判決確定ノ效力ヲ認ムルハ立法上失當ニアラス又同一ノ目的ヲ以

テ破産者カ争ハサル破産債權ニ付キ認諾シタルト同一ノ效力ヲ認メ破産手續
 ニ於ケル破産債權ノ確定ヲ要件トシテ判決確定ノ效力及ヒ執行名義タルノ效
 力ヲ認ムルモ亦然リ
 (B) 異議 異議ハ届出權利ノ承認ヲ妨タルノ意思表示ナリ届出權利ノ承認ヲ
 妨タルモノナルカ故ニ承認ノ成立前ニアラスハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
 又承認ヲ妨タル意思表示ナルカ故ニ異議申立權者カ特定ノ債權ニ對シ異議ア
 リトノ旨ヲ表示スルヲ以テ足レリトシ其理由ヲ明示スルノ要ナシ其他別ニ特
 別ノ方式ナシ然レトモ争點カ適當ニ説明セラルルコトハ調和ノ爲メ甚タ希望
 スヘキコトナルヲ以テ主任官カ其訊問權ヲ以テ之ヲ明瞭ナラシムルノ權限ヲ
 有スルヤ當然ナリ而シテ異議ノ理由ハ之ヲ明示スルノ要ナキヲ以テ異議申立
 權者カ調査期日ニ陳述シタル異議ノ理由ニ付キ拘束セララルルコトナシ(性質)
 各異議ハ調査期日ニ出頭シタル各異議申立權者カ口頭ニテ申立テタルモノナ
 リ蓋シ債權ノ調査ハ届出權利ノ存否及ヒ數額ヲ明白ナラシムルコトヲ目的ト
 スルヲ以テ調査期日ニ出頭セスシテ書面ヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ケン

ムルハ大ニ該目的ノ背馳スルカ故ナリ(方法異議ヲ申立テラレタル届出權利ハ該異議ヲ除去スルニアラス)ハ確定セザルモノタリ此除去ハ調査期日ニ於テ又ハ其期日以後ニ於テ爲サルモノタリ其除去ニハ取消ト異議排斥確定判決ノ二方法アリ異議申立權者ハ其申立テタル異議ヲ調査期日ニ於テ又ハ其期日以後ニ於テ書面又ハ口頭ニテ(民事訴訟法第一三五條取消スコトヲ得蓋シ異議ノ申立ハ債權者ニ對シテハ其利益防禦ノ爲メニスル隨意ノ權能ニシテ又管財人ニ對シテハ其自由ナル意見ニ任セラレタル職權ノ作用ナレハナリ殊ニ管財人ハ届出債權ニ對シ異議ヲ申立ツルト否トヲ判斷スルノ職權ヲ有ス異議申立ノ取消ハ異議ヲ申立テラルモノト其實質ヲ同シラスルモノナリ隨テ管財人カ其申立テタル異議ヲ取消スコトヲ得ルハ當然ナリ異議申立ノ取消ハ之ヲ申立テタル債權者ニ該取消ヲ知ラシムルカ爲メニ送達セザルヘカラス但シ該債權者カ調査期日ニ出頭シ異議申立ノ取消アリタルコトヲ知リタル場合ハ此限ニ在ラザルヤ言フ埃タス判決ニ依レル異議除去ノ方法ハ次款ニ説明スル所ナリ(效果(第一〇二七條第一項)獨逸破産法第一四四條第一項)

破産者カ債權調査會ニ於テ届出權利ニ對シ争ヒタルトキハ其權利ヲ有スル債權者ハ經令該權利カ破産手續ニ於テ確定シタリト雖モ破産手續終結以後債務者ニ對シ執行名義アルモノトシテ直チニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ザルヲ當然トス(前述ノ説明參考是ヲ以テ獨逸破産法ハ破産者カ調査期日ニ於テ届出權利ヲ争ヒタルトキハ其權利ニ關スル破産手續ニ從テ確定ハ破産者ニ對シ效力ナシ隨テ該權利者ハ破産手續終局以後破産手續ニ於ケル權利ノ確定ヲ執行名義トシテ債務者ニ對シ執行ヲ爲スコトヲ得ス又該權利ニ關シ破産手續開始前ニ繫屬シ且ツ破産手續開始ノ爲メニ中断シタル訴訟ヲ爾後破産者ニ對シテ承認スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ(是レ破産債權者ノ利益ノ爲メニ破産者ノ異議ノ結果トシテ破産手續終結以後ニ於ケル執行ノ延滞ヲ防止スルノ法意ナリ(民事訴訟法第一七九條、獨逸破産法第一四四條第二項、第一六四條第二項)我商法第四十九條ニ於テ管財人カ破産者ヲ代表スルコトヲ理由トシテ破産者ノ異議アリタルニモ拘ラス破産手續ニ於テ確定シタル債權ニ基キ破産者ニ對シ無限ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルハ立法上失當タルヲ免レス何トナレハ管

財人ハ債權者團體ノ機關ニシテ異議ヲ申立ツルモノタリ行爲無能力者ニアラズシテ處分無能力者ニ外ナラサル破産者カ法定代理人ニ依リ破産手續上異議ヲ申立ツルコトヲ得ルト云フハ擅著シタル觀念ト謂フヘケレハナリ
 調査ノ結果即チ承認及ヒ異議ハ債權表及ヒ債權證書ニ附記シ且ツ債權者若クハ其他ノ人ニ通知ス第一〇二五條第二項佛蘭西商法第四九七條債權表ニ附記スルハ債權證書ナキカ又ハ紛失シタル場合ニ實效アラシムルカ爲メニシテ又債權證書ニ附記スルハ届出權利ノ破産的執行ニ關スル效能ノ程度ヲ明示スルカ爲メニシテ又債權者若クハ其他ノ人ニ通知スルハ確定ノ訴ヲ提起スルノ必要不必要ヲ知ラシムルカ爲メナリ

第三款 狹義ノ確定手續

異議ヲ申立テタル債權者若クハ管財人カ其異議ヲ取消ササルカ又ハ異議ヲ申立テラレタル債權者カ其債權ノ届出ヲ取下ケタル場合ニ於テハ第一〇二七條佛蘭西商法第四九八條佛蘭西民事訴訟法第七二條第四一六條獨逸破産法第二

四四條第一四五條異議ヲ申立テラレタル届出權利ニ關スル確認ノ訴ヲ提起シ判決ヲ以テ該權利ニ關スル異議ノ當否ヲ確定セサルヘカラス蓋シ債權者ハ破産手續ニ從ヒテ確定シタル權利ニ基クニアラスンハ破産的執行ヲ爲スコトヲ得テレハナリ第一〇二六條第一〇二九條「……然レトモ異議ヲ受ケタル訴訟中ニ在ル債權引用」

異議ヲ申立テラレタル權利確定ノ訴ト破産手續トノ關係ニ付キ立法上ニ主義アリ獨逸普通法ハ届出權利確定ニ關スル訴訟ヲ破産手續ノ内ニ在ルモノト爲シ且ツ之ヲ確定手續ノ一成分ト認メタレトモ獨逸破産法ハ異議ヲ申立テラレタル權利確定ノ訴ヲ全然破産手續ノ外ニ在ル獨立の訴訟トシ唯其結果カ破産手續ニ關聯スルノミト認メタリ其他佛蘭西商法第四九八條伊太利商法第七六三條等亦獨逸普通法ノ觀念ニ依ラスシテ破産手續ト確定手續トノ併合ナル觀念ニ依リテ立法シタルモノノ如シ我商法ハ此點ニ於テ大ニ曖昧ヲ極メタレトモ草案理由書ニ依レハ佛蘭西派ノ立法ニ傾ケルモノノ如シ左ニ訴ノ性質當事者訴訟手續、管轄裁判所、判決手續及ヒ判決ノ效力及ヒ其他ノ點ヲ略述スヘシ

(A) 訴ノ性質當事者及ヒ訴訟手續

届出權利ノ確定ヲ目的トスル訴ハ一ノ確認訴訟ニシテ執行訴訟ニアラス何イナレハ道ハ訴訟的異議ノ排斥ヲ目的トスルニ外ナラサレハナリ多數ノ學者殊ニ「ブキフヘルド」ニ「ウキルモースキヤ」ヲ「ハ」ニ「エツケル」氏等ハ此種ノ訴訟ハ唯リ法律關係ノ成立若クハ不成立ノ確認ヲ目的トスルノミナラス却テ破産手續ニ於ケル満足享有ノ許容ヲ目的トスルモノナルヲ以テ民事訴訟法ノ意味ニ於ケル確認訴訟ト爲ラスト反對シタリ余輩ハ破産手續ニ於ケル満足享有ノ許容ハ確定ヲ目的トスル訴訟上ノ結果ニシテ目的ニアラサルヲ以テ「コーレル」ベータル「ベン」氏等ノ如ク確認訴訟ト謂フヲ正當ト認ム(性質)

届出債權確定訴訟ノ當事者ハ異議ヲ申立テラレタル債權者及ヒ之ヲ申立テタル債權者又ハ管財人ナルコトハ疑ナシト雖モ孰レカ原告ニシテ孰レカ被告ナルヤ即チ我商法第二十七條ニ所謂原告被告トハ如何ナル者ナルヤノ問題ハ特ニ明文ナキヲ以テ學理上論争ノ餘地アリ獨逸破産法ニ於テハ異議ヲ申立テラレタル届出債權力既ニ執行名義若クハ少クトモ終局判決ヲ具備シタルト否

トニ從ヒテ區別ヲ爲シ前者ノ場合ニ於テハ該權利ハ異議申立者カ該權利ノ終局判決若クハ執行名義ヲ除去スルコトヲ成功セザル旨ノ條件ノ下ニ於テ破産手續ニ參加スルコトヲ許サルモノナリトノ思想ニ基キ異議申立者カ異議ヲ申立テラレタル者ニ對シ異議ノ訴ノ名ニ於テ又後者ノ場合ニ於テハ該權利者ハ異議ノ排斥ヲ成功シタル旨ノ條件ノ下ニ於テ破産手續ニ參加スルコトヲ許サルモノナリトノ思想ニ基キテ異議ヲ申立テラレタル者カ異議申立者ニ對シ確認訴訟ノ名ニ於テ確定ノ訴ヲ提起スルモノタリ佛蘭西商法ニ於テハ明文上大ニ曖昧ヲ極メタリト雖モ後述ノ如ク事件カ商事裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ異議ヲ申立テラレタル債權者ノ申立又ハ破産主任官ノ報告ニ因リ届出權利確定ノ手續ヲ爲シ民事裁判所若クハ刑事裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ法律上訴權ヲ有スル者ノ求ニ因リ裁判スヘキモノケルニ似タリ佛蘭西商法第四九八條第五〇〇條我商法ハ法文上何等ノ區別ナキヲ以テ異議排斥ニ付キ利益ヲ有スル異議ヲ申立テラレタル債權者カ常ニ原告トシテ異議申立者ヲ被告トシテ確定ノ訴ヲ提起セザルヲ得スト論結スルヲ可トス立法論トシテ

獨逸破産法ヲ正當ト認ム蓋シ權利ノ届出ハ裁判上ノ確定力ナク且ツ執行名義ヲ備ヘサルヲ以テ届出債權者カ確定ノ手續ヲ悉シ且ツ之ニ依リテ破産財團ノ配當ニ參加スルコトヲ得ヘキ執行名義ヲ得ルヲ當然トス隨テ届出債權者ハ其届出權利ニ對スル異議申立者ニ對シ確定ノ訴ヲ提起スヘキモノナルヤ明白ナリト雖モ届出權利ニ付キ勝訴終局判決若クハ執行名義ノ存スルトキハ債務者タル破産者ノ一般承繼人ニ外ナラサル破産債權者ニ對シ尙ホ效力ヲ有スルヲ當然トス隨テ各破産債權者及ヒ破産債權者團體ノ機關トシテ異議ヲ申立ツヘキ管財人ハ破産者其人ト同シク確定判決ヲ經タルモノニ對シテハ再審ノ訴又ハ異議ノ訴民事訴訟法第五四五條判決及ヒ決定ヲ受ケタル者ニ對シテハ上訴又ハ故障等ヲ爲シテ異議ノ正當ナル旨ヲ主張セサルヘカラサルヲ以テナリ「當事者」

獨逸破産法ニ於テハ異議ヲ申立テラレタル届出債權ノ確認、訴訟ニ基ケル確定ノ方法トシテ該權利ニ關シ破産手續開始前ニ於テ未タ訴訟カ繫屬セザリシトキハ通常ノ手續ニ從ヒテ新ニ届出債權確定ノ訴ヲ提起シ又既に訴訟カ繫屬シタ

ルトキハ異議申立者ニ對シ破産手續ノ開始ニ因リ中断セラレタル訴訟ヲ受繼スルノ手續ヲ爲シテ訴訟ヲ續行スヘキ旨ヲ規定シタリ而シテ起訴又ハ受繼ニ付キ法文上新ニ期間ヲ定メテサレトモ配當實施ノ公告ヨリ二週間内ニ管財人ニ對シ之カ手續ヲ悉シタルコトヲ證明スルニアラスンハ異議ヲ申立テラレタル權利ヲ配當ニ際シ斟酌セサルヲ以テ債權者ハ其權利ノ防禦上適當ノ期間内ニ起訴又ハ受繼ヲ爲スコトト爲ル破産裁判所ハ債權者ヲシテ斯ル手續ヲ爲スコトヲ容易ナラシムルカ爲メニ異議ヲ記載シタル債權表ノ起草原本ヲ交付ス獨逸破産法第一五二條第一四六條第一項(獨逸破産法第四百十六條第二項ニ於テハ「通常ノ手續ニ於テ確定ノ訴ヲ提起スヘシ」ト規定シタルヲ以テ通常ノ手續トハ民事訴訟法ニ於ケル通常ノ手續ナルヤ又ハ破産手續ニアラザル手續ナルヤニ付キ學者ノ論争ヲ招キタリ獨逸ノ「コーレル」氏ハ茲ニ所謂通常手續ヲ破産手續ニ屬セサル各手續即チ破産手續ト相對スルモノト解シ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ手續ニ依リ確定ノ訴ヲ提起シ又ハ受繼シテ之ヲ續行スルコトヲ得ヘキ旨ヲ主張シザルワイ氏ハ茲ニ所謂通常手續ヲ民事訴訟ノ意味ニ於ケル通常ノ手續

ト解シ證書訴訟爲替訴訟ノ如キ特別ノ手續ハ確定ノ訴ニ依ルコト能ハサルモノナリト主張シゾキフヘルド氏モ亦證書訴訟爲替訴訟及ヒ督促手續ノ如キハ終局ノ結果ヲ生セシメサルヲ以テ確定ノ訴ノ形式ニ適セサル旨ヲ主張シ「ガウブ」キルモ「スキ」氏等ハ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ハ支拂若クハ給付ヲ履行セシムル手續ニシテ獨逸破産法第四百十六條ニ規定シタル確定ノ訴其他獨逸民事訴訟法第二百三十一條第二百五十三條ニ規定シタル確認ノ訴ニ適用ナシト主張シタリ訴訟物ノ價額ハ獨逸破産法第四百十八條ニ於テハ破産債權ト破産財團トノ配當の割合即チ假定ノ金銭の利益ヲ以テ訴訟物ノ價額ト爲シタリ故ニ割合カ百分ノ三ナルトキハ金千圓ノ確定訴訟ニ於テ金三百圓ヲ以テ訴訟物ト爲ス是レ蓋シ破産手續ニ於テハ配當額ニ於テノミ確定ノ效力ヲ表彰スヘキモノナリトノ趣旨ニ基ケルナルヘシ我商法ニ於テハ其第四百九條ニ依リ破産者ニ對シ確定シタル權利ニ基キ無限ニ執行スルコトヲ得ヘキヲ以テ斯ル見解ヲ採ルコト能ハサルヤ瞭然タリ訴訟ノ受繼及ヒ其續行ハ從來ノ訴訟の成績ヲ利用スルノ法意ニ基ケリ而シテ執行訴訟ヲ爾後適法ニ確認訴訟ニ變更スル

コトヲ得ルハ獨逸民事訴訟法學者ノ是認スル所ニシテ又我大審院ノ明治三十年三月二十日判例ノ是認スル所ナリ

其他異議ヲ申立テラレタル届出權利ノ異議訴訟ニ基ケル確定ノ方法トシテハ異議申立者カ届出權利ニ對スル異議ノ原因ニ從ヒテ適當ナル訴訟ヲ爲スモ稍タリ故ニ届出權利ノ名義ニ對スル攻撃トシテハ故隙、上訴再審ノ訴ヲ以テシノ保ヲ掲ケタル判決ニ對スル攻撃トシテハ爾後ノ手續ヲ繁雜セシムルノ途ヲ探リ又執行文ニ對スル攻撃トシテハ異議ノ申立又ハ異議ノ訴ヲ以テシ訴訟事件カ既ニ繫屬シタルトキハ訴訟受繼ニ因リテ異議ヲ主張ス民事訴訟法第五二二條第五六二條第二項第五四六條第五六一條第三項第五六二條第四項第五四五條第五六一條第二項第三項第五六二條第三項第七六八條第七九六條第三項第七九七條第五項第七六七條第七九六條第二項第三項第七九七條第四項第三〇二條第四項第五四一條第六〇〇條而シテ名義ノ原因タル債權カ債權者ニ損害ヲ被ラシムルカ爲メニ成立シタルモノナルトキハ唯リ管財人ノミカ異議ヲ

申立テ獨逸破産法第二十九條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘシ佛蘭西商法ニ於テハ斯ル重要ナル問題ニ關シ何等ノ明文ナク又之ニ論及シタル學說ナシ唯佛蘭西商法第四百八十八條第一項ニ於テ破産事項ニ關スル爭訟ヲ急遽ニ終局セシムルノ目的ヲ以テ破産主任官ヲシテ該爭訟ヲ職權ヲ以テ管轄裁判所ニ送達セシムル旨ヲ示シタレトモ主任官カ該職權ヲ行使セザルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ相手方ニ呼出狀ヲ發セザルヘカラスカ如シ我商法ニ於テ亦然リ然レトモ商法第千二十七條及ヒ第千二十九條然レトモ異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債權ヲ綜合シ異議ヲ申立テラレタル債權者カ確認訴訟及ヒ異議訴訟ノ區別ナク漠然確定訴訟トシテ破産裁判所ニ起訴スヘキモノト論結スルヲ正當トスルニ似タリ(獨逸破産法ニ於ケルカ如ク訴訟受繼ノ方法ヲ認メザルハ缺點ナリ)而シテ其起訴期間ハ法文ノ定メタル所ナレトモ成ルヘク該訴訟終局以後ニ於テ破産手續ヲ終局モシメントスルノ法意第一〇二八條第一項上段ヨリ推理シ當事者ハ適當ノ期間ニ之カ手續ヲ爲サザルヘカラス然ラズンハ異議ヲ受ケ訴訟中ニアラザル債權者即チ債權ノ確定セザル債權者トシテ取扱ハル

ヘシ(確定訴訟ハ民事訴訟法ニ規定シタル通常ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲シ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ手續ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ得ス獨逸ノコトレル氏ハ此手續ニ於ケル執行名義ハ一時の性質ヲ有スルニ過キスト雖モ而モ確定的終了ヲ導クニ足ルモノナルコトヲ理由トシテ反對ニ論結スト雖モ證書訴訟及ヒ爲替訴訟ハ支拂又ハ給付ヲ目的トスル執行訴訟ノ手續タル特色ヨリ推究スレハ前示ノ如ク論結スルヲ正當ト謂ハザルヘカラス民事訴訟法第四八四條以下參照) 確定訴訟ハ届出ニ準シテ破産財團ノ配當ヲ受ケ其他破産債權團體ニ加入スルコトヲ得ルノ執行名義ヲ發生セシムルヲ目的トス故ニ確定ノ訴ハ届出テタル權利ノ原因數額及ヒ順位等ヲ其原因ト爲スマヤ當然ナリ故ニ原告ハ債權調査會ニ於テ演述シタル届出權利ノ原因數額及ヒ順位ニ關スル主張ニ拘束セラレ之ト同一ノ主張即チ原因ノ變更スルコトナク又數額順位等ヲ擴張スルコトナク調査會ニ於テ有效ニ主張シタルモノト同一ノ主張ヲ確定ノ訴ノ原因ト爲サザルヘカラス(獨逸破産法第一四六條第四項隨テ該法則ニ適セザルトキハ不適法

トシテ却下セタルヘカラス(獨逸破産法ニ於テハ訴訟ノ受權ニ依レル確定訴訟ニ於テハ變更シタル事情ト目的トニ從ヒ當然前訴ノ申立ハ變更セラレ調査期日ニ於テ主張シタル請求ノ原因數額及ヒ順位等ニ制限セララルモノト爲シタリ又獨逸破産法第百四十六條第一項ハ原告ヲシテ此等ノ要件ノ立證ヲ容易ニ爲サシムルカ爲メニ破産裁判所カ職權ヲ以テ債權表ノ拔萃原本ヲ原告ニ交付スヘキ旨ヲ規定シタリ)異議申立者ハ調査會ニ於テ演述シタル主張ニ拘束セララルコトナキハ前述シタル所ナリ

多數ノ異議申立者アリタルトキハ異議ヲ申立テラレタル債權者ハ此等ノ總申立者ニ對シ共、同、又ハ各別、ニテ確定ノ訴ヲ提起セタルヘカラス蓋シ債權者カ破産手續ニ於ケル、參加ヲ許與セラルルコトハ總異議申立者ニ對シ勝訴シタルコトヲ要スレハナリ債權者カ總異議申立者ニ對シ共同的ニ起訴シタルトキハ各異議ノ同種ナルト否トニ從ヒ同一確定訴訟(民事訴訟法第五〇條)爲リ又ハ爲ラナルコトアリ各異議カ同種ナルトキハ唯一のニ裁判スルコトヲ得ルヲ以テ合一的確定訴訟ヲ成シ各異議カ異種ナルトキ例ヘハ甲異議申立者ハ届出權

利ノ成立、乙異議申立者ハ其破産債權者タルノ資格丙異議申立者ハ唯順位ヲ争ヒタルトキハ合一的確定ノ必要ナキヲ以テ合一的確定訴訟ヲ爲ササルヤ當然ナリ債權者カ總異議申立者ニ對シ各別的ニ起訴シタルトキハ管轄裁判所ハ數箇ノ訴訟ノ併合ヲ命スルコトヲ得(第一〇二七條)成ル可ク合併シテ……民事訴訟法第一二〇條)面シテ債權者カ異議申立者中ノ一人ニ對シ勝訴シタルカ爲メニ破産手續ニ參加スルコトヲ得ヘキ確定ノ執行名義ヲ得ルモノニアラザルヲ以テ各別訴訟ニ基ケル判決ハ被告ノ異議ノ排斥ヲ言渡シ届出權利ノ確定ヲ言渡スモノニアラス總被告ニ對スル異議排斥判決ノ合計カ届出權利ノ確定ト爲シ又異議申立者一人ノ勝訴ニ歸シタル判決ハ他ノ異議申立者ノ利益ニ於テ其效力ヲ有ス甲異議申立者ハ債權者ト乙異議申立者トノ確定訴訟ニ於テ從參加人トシテ被告乙ヲ補助スルカ爲メニ之ニ附隨スルコトヲ得何トナレハ乙異議申立者ノ異議申立者ノ異議ヲ正常ナリト認メタル判決ハ甲異議申立者ノ利益ニ於テ效力ヲ有スルカ故ニ甲異議申立者ハ乙異議申立者ノ勝訴ニ付キ權利上利害關係ヲ有スト謂ハサルヲ得サレハナリ民事訴訟法第五三條但シ異議ヲ

申立テナリシ債權者ハ確定訴訟ニ於テ異議申立者ノ異議ヲ正當ト認メラルル判決ニ付キ利害關係ヲ有スルニ拘ラス從參加人ト爲ルコトヲ得ス蓋シ此種ノ債權者ハ調査會ニ於テ異議ヲ申立テサリシ事實ニ因リ届出債權ヲ攻撃スヘキ權能ヲ喪失シタルモノナレハナリ其他破産者ハ處分無能力者タルヲ以テ確定ノ訴ニ參加スルコトヲ得サルヤ明白ナリ獨逸破産法ノ解釋トシテハ特別ノ理由ニ依リ破産者カ從參加ヲ爲スコトヲ得サルハ學者ノ爭ハサル所ナリ)

確定ノ訴カ未ダ終局セザルニ當リテ破産手續カ停止セラレ(商法第九八二條)又ハ協諾契約ニ因リテ終局セラレタルトキハ確定ノ訴ハ其本案ニ於テ目的ノ欠缺ト爲リ其訴訟費用負擔ニ於テ異議申立テラレタル債權者ト異議申立者(管財人)カ異議申立者タルトキハ破産者ニ對シテ續行スルコト爲ル又破産手續カ配當ニ因リテ終局セラレタルトキハ緊屬シタル確定ノ訴ニ何等ノ影響スル所ナシ異議ヲ申立テラレテ訴訟中ニ在ル債權者ニ歸屬スヘキ配當額ハ之ヲ供託シ訴訟カ該債權者ノ利益ニ歸シタルトキハ配當額モ亦該債權者ニ歸屬シ反對ノ場合ニ於テハ該配當額ヲ他ノ破産債權者ニ爾後配當スヘキモノタリ隨テ管財人カ異

議ヲ申立テタルカ爲メニ異議ヲ排斥スル確定ノ訴ノ相手方ト爲リタルトキハ配當ニ因ル破産手續ノ終局ノ爲メニ相手方タルノ權限ヲ喪失スルコトナシ蓋シ未確定債權者ノ爲メニ供託セラレタル配當額ハ直チニ破産者ニ歸屬スヘキモノニアラサレハナリ

(B) 管轄裁判所及ヒ判決手續

獨逸破産法ニ於テハ届出權利確認ノ訴ヲ破産手續ノ緊屬スル破産裁判所若クハ目的物カ破産裁判所タル區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ之カ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタリ(獨逸破産法第一四六條第二項)是レ破産ハ一ノ執行ノ關係ナルヲ以テ獨逸民事訴訟法第八百七十九條第八百二條(民事訴訟法第六三五條第五六三條)ニ於テ配當ニ關スル異議ノ訴カ配當裁判所又ハ其所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬スルト同一ノ法意ニ基ケリ(訴訟ノ受繼ニ依レル確定ニ關シテハ受訴裁判所又異議訴訟ニ關シテハ民事訴訟法及ヒ特別法ノ規定ニ基キタル裁判所カ管轄スル所ナルヤ言フ埃タス佛蘭西商法ニ於テハ訴訟事件ノ性質ニ從ヒテ管轄裁判所ヲ異ニセリ破産ニ原因ス

ル爭訟佛蘭西商法第四四六條以下第六三五條ハ商事裁判所ノ管轄ニ屬シ契約ノ瑕疵能力ノ欠損等ニ基クテ爭訟ニシテ破産ヨリ生セサルモノハ民事裁判所ノ管轄ニ屬シ破産者ノ責ニ任スヘキ犯罪ニ原因スル損害賠償タル債權ニ關シテハ刑事裁判所ハ之カ爭訟ヲ管轄ス佛蘭西商法第四九八條第五〇〇條第一項第二項

我商法ニ於テハ確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第一〇二七條)破産裁判所「民事訴訟法第五六三條準用」是レ確定訴訟ノ結果ハ破産手續ニ關係アルヲ以テ配當ニ關スル異議ヲ配當裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルト同シク確定ノ訴ヲ破産裁判所ノ管轄ニ專屬セシメタルナリ此ノ如ク確定ノ訴ニ關スル破産裁判所ノ管轄ハ專ニ屬ナルヲ以テ當事者カ契約ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ス然レトモ破産者ニ異議ヲ申立テラレタル債權者トノ間ニ於テ破産手續開始以前有效ニ仲裁契約カ成立シタルトキハ該契約ハ尙ホ異議申立者管財人及ヒ破産債權者ヲ拘束ス蓋シ管財人及ヒ各破産債權者ノ異議ハ破産者ニ對シテ成立スル破産の差押權ニ其源ヲ汲ムヲ以テ仲裁契約ヲ無視スル權利ハ破産者

預金ハ支拂期日ノ到來スルマテ拂戻ノ要求ヲ受クルコトナキカ故ニ其間他ニ貸出スコトヲ得ルハ論ヲ埃タス又要求次第返済スヘキ當座預金ト雖モ通常金額一時ニ拂戻ノ要求ニ遇フモノニアラス隨テ銀行ハ常ニ其全部ヲ其金庫中ニ貯藏スルコトナク唯其一小部分ヲ準備トシテ備ヘ置クトキハ通常日ノ拂戻ノ要求ニ應スルニ十分ナルカ故ニ其餘ノ資金ハ一時他ニ貸出シテ利殖ヲ計ルモノナリ然レトモ實際ニ現ハル預金引出ノ分量ハ預金者ノ都合ニ因リ又ハ預リ主タル銀行ノ信用如何ニ因リテ常ニ變動ヲ免レタルカ故ニ當座預金ニ因リテ得タル資金ヲ以テ餘リ長期ノ貸付ヲ爲ストキハ一旦多額ノ預金引出ニ遇ヒタルトキ之ヲ如何トモスル能ハサルニ至ルノ虞アルカ故ニ力メテ短期ノ貸付ヲ爲ササルヘカラス而シテ最も好ク此目的ニ適スルモノハ手形ノ割引ナリ今其一例ヲ舉ケテ之ヲ説明スレハ商人間ニハ「展商品」ヲ延(ニテ)賣買スルコトアリ此時ニ當リテ賣主カ品物ノ代金ヲ受取ルヘキ期限前ニ現金ノ必要アルトキハ買主ヨリ品物代金ニ當ル約束手形ヲ受取リ之ヲ銀行ニ持參シテ現金ノ融通ヲ乞フコトアリ其時銀行ハ其手形ヲ額面ノ金額ヨリ支拂期日マテノ利子ヲ引

去リタル額ニ相當スル價格ヲ以テ買取ルコトアリ之ヲ手形ノ割引ト謂フ銀行ハ手形ヲ買取リテ賣主ノ債權ヲ讓受ケ期日ニ至リ直接ニ手形ノ發行人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取リ割引ノ際ニ支出シタル資本ノ元利ヲ同收スルコトアリ又ハ手形期日ノ到來ヲ待タヌシテ其手形ヲ他人ニ賣却スルコトアリ又ハ貸付ノ貸付トハ通常動産ヲ擔保トシテ爲ス所ノ貸金ヲ謂フ而シテ擔保品ハ有價證券貴金屬商品等ニシテ容易ニ其價格ノ減盡若クハ減少セザル物ニシテ銀行又ハ倉庫業者ニ於テ保管スルコト餘リ困難ナラザル物ニ限ル此種ノ貸付モ亦短期ニシテ六箇月以内ナルヲ通常トス又貸付ノ金額ハ契約ノ期間中擔保品カ或ハ其マテ下落スルコトアルヘシトノ豫定價格ヲ超過スヘカラサルモノトス貸付ハ擔保品ノ持主ニ賣却スルコトヲ好マサル貨物ノ價格ヲ一時利用スルコトヲ得セシメ又ハ結局賣却セント欲スル貨物ヲ適當ナリト思考スル時期ニ賣却スルノ機會ヲ得セシムルモノナリ又此銀行ハ當座預金ヲ爲シ居ル人ニ對シテ通常相當ノ抵當ヲ徵シテ一定ノ金額マテ貸付ノ豫約ヲ爲シ其範圍ニ於テハ尙ホ預金ノ殘高アルトキハ同様ニ隨意ニ資金ヲ引出スコトヲ許スコトアリ

リ之ヲ當座貸越約定ト謂フ右ノ外此銀行ハ有價證券ノ買入送金地金銀ノ買買等ノ業ヲ營ムモノナリ

第二項 紙幣發行銀行

紙幣發行銀行トハ銀行紙幣發行ノ特權ヲ有スル銀行ヲ謂フ銀行紙幣ハ呈示期間ノ制限ナク一覽次第持參人ヘ手形面ノ金額ヲ支拂フヘキ約束手形ニシテ通常經リタル金額(本位貨又ハ其倍數)ニ對シテ發行セラルルモノナリ銀行紙幣ハ法律ノ規定ニ依リ第三者間發行者以外ノ者相互ノ間ニ法律上ノ支拂手段法貨タル性質ヲ具フルコトアリ然レトモ發行者自身ヨリ相手方ニ對シテハ強制的ニ支拂手段トシテ使用シ得サルヲ通常トス日本銀行佛蘭西銀行千八百三十四年以來ノ英國銀行ノ銀行紙幣ハ第三者間ニハ強制流通ノ性質ヲ有スレトモ銀行ヨリ其相手方ニ對シテハ此性質ヲ有セサルナリ

註 發行者自身ヨリ相手方ニ對シテ法貨タル性質ヲ有スルト否トハ銀行紙幣ト圖有ノ紙幣不換紙幣トヲ區別スルノ要點ナリ

ルトキ受託ノ證書トシテ預金證券ヲ預ケ主ニ與ヘタルコトアリ而シテ此金銀貨幣ノ預リ主即チ預金證券發行者ハ貨幣ノ受託者ナルカ故ニ常ニ其發行シタル預金證券全體ニ對スル金額ヲ手許ニ貯藏スルノ義務ヲ負擔シタルモノナリ而シテ預金者ハ其後自己ノ債務ノ辨濟等ノ爲メニ貨幣ノ必要アルトキハ證券ヲ呈示シテ預リ主ヨリ貨幣ヲ受取り之ヲ以テ支拂ヲ爲シタルモノナリ然ルニ支拂ヲ受ケタル者モ目下貨幣ノ必要ナキトキハ通常手許ニ置カスシテ他人ニ預ケ入レタルモノナリ夫故ニ預金證券發行者ニシテ信用アリ且ツ世間ニ著名ナル者ナルトキハ預金證券受取人ハ一旦正金ヲ取付ケ之ヲ以テ支拂ヲ爲スカ如キ繁雜ナル手數ヲ省キ預金證券ヲ與ヘテ自己ノ預リ主ニ對スル權利ヲ相手方ニ移シ正金ノ仕拂ニ代フルコトヲ得タリ此ノ如クニシテ預金證券ハ支拂ノ手段トシテ貨幣ノ代リニ流通スルニ至レリ而シテ此預金證券カ支拂ノ手段トシテ利用セララルコト益盛シナレハ正金引換ノ爲メニ發行者ニ呈示セララルコト益少キモノナリ隨テ此證券ノ發行者ハ其發行額ノ一部分ニ對スル貨

幣ヲ準備シ置クトキハ能ク日常ノ引替請求ニ應スルコトヲ得ルカ故ニ證券發行者ハ其發行額全體ニ對スル貨幣ヲ貯藏ニ置クノ義務アルニ拘ラス實際上金額ヲ貯藏セス貨幣ノ一部分ヲ他ニ流用スルニ至レリ然レトモ其方法宜キヲ得ルトキハ引換義務ヲ盡スノ妨トナラサルカ故ニ終ニ證券受取人及ヒ政府ノ許諾ヲ得テ貨幣引替ノ義務ヲ怠ラサル以上ハ必スシモ其發行額ノ全體ニ對スル正金ヲ手許ニ備ヘ置クコトヲ要セラルニ至レリ此ニ於テ預金證券ハ貨幣受託ノ證券タル性質ヲ失ヒ銀行紙幣即チ持參人ノ要求次第貨幣ヲ即時ニ支拂フヘシトノ約束手形ト變シタルモノナリ然レトモ此ノ如クニシテ發達シタル銀行紙幣ノ發行ニ對シテ相當ノ制限ヲ加ヘサルトキハ種種ノ弊害ヲ惹起スカ故ニ近時ノ文明諸國ニ於テハ唯リ特許ヲ與ヘタル銀行ニシテ其發行ヲ許シ其發行額及ヒ準備等ニ付テモ嚴重ニ法律ヲ以テ之ヲ規定セリ

第七章 手形交換所

手形交換所トハ各銀行カ得意先ヨリ支拂又ハ預ケ入トシテ受取ラタル他ノ組

合銀行ニ對スル辦濟期限ノ到達シタル各種ノ手形ヲ交換シ出來ル丈ハ相殺ニ依リ唯殘高ノミヲ他ノ方法ニ依リテ相互ノ債權債務ノ關係ヲ決濟センカ爲メニ組合銀行ノ代理者カ定時ニ集會スル制度若クハ處ヲ謂フ

註 他ノ方法トハ交換殘高ヲ正金ヲ以テ決濟スルカ又ハ組合銀行ハ交換殘高整理ノ爲メニ皆豫メ一箇ノ銀行ト取引ノ關係ヲ結ヒ置キ甲組合銀行ノ乙組合銀行ニ對スル貸借ヲ甲銀行ノ整理銀行ニ對スル預金若シクハ借金トシ乙銀行ノ整理銀行ニ對スル借金若クハ預金トシテ組合銀行相互ノ債權債務ノ關係ヲ解タカ如キ方法ヲ謂フナリ

第三編 貸財分配論

第一章 分配所得

抑モ生産ヲ奉クルニハ原料ヲ費シ又器具機械建物其他ノ固定資本ヲ損セナル

ヘカラス此等ノ費用ヲ生産ノ結果タル生産物ヨリ引キ去リ餘ス所ハ即チ生産ニ因リテ新ニ作り出サレタル部分ナリ此部分ハ生産ニ與レル者ノ間ニ分配セラレナルヘカラス貸財ノ分配トハ即チ此謂ナリ今夫レ方今ノ社會ニ於テハ企業者カ自己ノ計算ニ於テ生産ノ三要素ヲ結合管理シ以テ生産ヲ營ムラ常態トスルコト前ニ述ヘタルカ如シ是ニ於テカカ生産ニ因リテ新ニ生シタル部分ハ先ツ以テ企業者ノ所有ニ歸シ企業者ノ手ヨリ他ノ生産參與者即チ土地ヲ供シタル地主勞力ヲ供シタル勞動者資本ヲ供シタル資本主ノ間ニ分タルモノナリ而シテ分配ノ分量ニ至リテハ企業者ト他ノ生産者トノ間ニ豫メ取結ヘレタル契約ニ因リテ定マルモノトス換言スレハ地主勞動者資本主カ生産ヨリ得ル所ノモノハ各自當初ニ自由ノ契約ニ因リテ定メタル報酬ニ外ナラス地主ノ得ル所之ヲ地代ト曰ヒ勞動者ノ得ル所之ヲ賃錢ト曰ヒ資本主ノ得ル所之ヲ利子ト曰フ而シテ企業者自身モ亦生産ヲ管理シ利益ヲ負擔スルコトニ對シ得ル所アリ之ヲ企業利益ト曰フ但シ實際ニ於テハ資本主ニシテ且ツ企業者タリ地主ニシテ且ツ資本主タリト云フカ如ク一人ニシテ二種以上ノ生産者ノ資格ヲ兼テ隨テ

二種以上ノ報酬ヲ受タル者アルヲ普通トス唯理論上ニ於テ此等ノ資格ヲ分チ
 又其受タル報酬ヲ分チ各別ニ之ヲ論究スルヲ以テ至當トシ又便利トスルノミ
 地代賃錢利子企業利益ハ各之ヲ受タル者ノ所得ヲ成ス所得トハ一定ノ期間内ニ
 吾人ノ所有ニ歸シ別ニ吾人ノ經濟上ノ地位ヲ損セスシテ吾人ノ消費ヲ得ル經
 濟的貨財ノ全體ヲ謂フ所得ハ其特質トシテ永續的ノ性質ヲ有スル源ヨリ出テ
 再三再四繰返シ來ルコトヲ意味ス左レハ所得ハ臨時ニ吾人ノ所有ニ歸スル贈
 與遺贈富籤金ノ如キモノヲ合マヌ此等ハ吾人ノ收入ヲ成スヘキモ吾人ノ所得
 ト稱スヘカラス
 所得ハ之ヲ受タル者カ自ラ農工商等ノ事業ニ從事シ其勤勞若クハ所有財產ノ
 利用ニ因リテ之ヲ得ルコトアリ此場合ニハ之ヲ本源所得ト曰フ又所得ハ之ヲ
 受タル者ニ於テ報酬又與ヘス他人ノ經濟ヨリ法律又ハ習慣等ノ力ニ依リテ得
 ルコトアリ此場合ニハ之ヲ引出の所得ト曰ヒ彼ノ公共團體カ人民ヨリ徵收ス
 ル租税ノ如キ又ハ父母カ其子ヨリ受クル一定ノ養料ノ如キ此種ニ屬ス分配篇
 ニ於テ論スル所ノモノハ皆本源の所得ナリトス

所得ハ貨幣ヲ以テ得ルコトアリ(貨幣所得)又實物ヲ以テ得ルコトアリ(實物所得)
 實物所得ハ常ニ一様ナル貨幣額ヲ得ルノ便アリ反之貨幣所得ハ貨幣ノ購買力
 ニ變動アルカ爲メ隨テ之ヲ以テ購ヒ得ル貨幣額常ニ一様ナラザルノ不便アリ
 然レトモ實物ヲ以テセラルルヨリモ隨意ニ如何ナル用途ニモ充當シ得ルノ利
 アリ方今ハ重ニ貨幣所得行ハル
 所得ハ全部之ヲ消費シテ吾人ノ生活ヲ維持シ幸福ヲ進ムルコトヲ得ヘク又ハ
 全部ヲ消費スルコトナク其一部ヲ貯蓄シテ財產ノ蓄積ニ充ツルコトヲ得ヘシ
 是ニ於テカ知ル所得ノ分配如何ハ貨幣ノ消費隨テ吾人ノ肉體的精神的欲望ノ
 満足ト貨財ノ生産トニ重大ノ關係アルコトヲ
 第二章 地代

夫レ土地ハ自然ノ儘ニ存在スルコトアリ又ハ其上ニ加ヘラレタル資本ト合
 シ一體ヲ爲シテ存在スルコトアリ前ノ場合ニハ土地ハ純然タル自然ナリ後ノ
 場合ニハ自然ト資本ヲ兼ズルモノナリ然リ而シテ普通ニ地代ト謂フトキハ總

土地主カ其土地ヲ利用セシメタルコトニ對シテ借地人ヨリ受取ル報酬ヲ意味ス隨テ此中ニハ土地改良ノ爲メニ費サレタル資本ニ對スル報酬即チ利子ヲモ包含スルモノナリ彼ノ小作人カ地主ニ支拂フ小作料ノ如キハ即チ普通ノ地代ト稱スルモノニシテ其中ニ該地主又ハ前地主カ排水灌漑施肥等ノ土地改良ニ投シタル資本ノ利子ヲ合ムヤ明カナリ然ルニ經濟學上ニ於テ地代ト稱スルハ普通ノ意義ヨリ一層狹隘ナルモノニシテ資本ニ對スル報酬ヲ含マズ單ニ自然トシテノ土地ニ對スル報酬ノミヲ意味スルモノナリ人々皆謂フ所ノ地代ハ地代ノ意義此ノ如シ之ヨリ進ミテ地代ノ原則ヲ説明セン

抑モ土地ハ勞力ト資本ヲ加ヘテ始メテ吾人ニ收穫ヲ與フ然レトモ若シ此收穫ニシテ單ニ勞力ト資本ニ對スル普通ノ報酬ヲ償フニ過キサルトキハ地代ハ未タ存セザルナリ然ラハ則チ總テノ土地カ地代ヲ生スルニアラス否土地ニシテ地主ニ地代ヲ與ヘタルモノ亦之アリ地代ハ實ニ下ノ原因ニ由リ下ニ進フルカ如クニシテ發生スルモノナリ

第一地代ハ土地ノ生産力ニ自然の差異アルヨリ生ズ

ハ人口尙ホ稀薄ニシテ土地ノ不足ヲ感セズ人人優等ノ土地ヲ耕シ得ルトキハ亦タ地代ヲ生セズ然リト雖モ人口漸ク増加シ農産物ニ對スル需要隨テ進ミ優等ナル土地ノ收穫ノミヲ以テハ最早需要ヲ充ス能ハス優等ナル土地ニ不足ヲ告グルニ至リテハ勢ヒ劣等ナル土地ヲモ耕ササルヘカラス劣等ナル土地トハ優等ノ土地ト同一ノ費用ヲ拂フモ收穫ハ却テ少キノ土地ニシテ即チ其收穫ノ生産費ハ之ヲ優等地ニ比シテ割合ニ多キモノナリ而モ此高キ生産費ヲ償フニ足ルニアラザレハ劣等地ノ耕作ヲ望ムヘカラス左レハ需要ノ増加起ルトキハ農産物ノ價ハ一般ニ騰貴シ劣等地モ生産費ヲ償ヒテ耕作セラルルニ至ル是ニ於テカ優等ナル土地ヲ所得スル地主ハ別ニ資本ヲ投例ヲ取リテ説明セン五圓ノ費用ヲ投シテ米二斗ノ收穫アル甲ノ土地ト米一斗ノ收穫アル乙ノ土地アリト假定セヨ米一斗ノ價二圓五十錢ナルトキハ甲ノ土地ノミ耕作セラレ其地ニハ地代ヲ生セズ然ルニ需要増加シ米價騰貴シテ一斗五圓ト爲ルトキハ乙地モ亦耕サルルニ至リ其結果トシテ甲地ノ地

主ハ坐ナカラ五圓ノ利ヲ得ヘシ是レ即チ地代ニシテ地主ノ所得ニ歸スルモノナリ是ニ依リテ之ヲ觀レハ優等地ノ地主カ其土地ヨリ得ル所ト劣等地ノ地主カ其土地ヨリ得ル所トノ差ハ即チ地代ナリ尚ホ之ヲ精密ニ言ヘハ最劣等地(既耕地中ノ最劣ノ土地)ノ謂ニシテ單ニ生産費ヲ價フニ足リ地代ヲ生セサルノ地ヨリ得ル所ト之ヨリモ優等ナル土地ヨリ得ル所トノ差額ハ即チ地代ナリトス

第二、地代ハ位置ニ便否ノ差アルヨリ生ス。土地ニハ農産物其他ノ貨物ヲ賣捌キ又ハ農工商業用、住宅用ノ家屋ヲ建築スル上ニ於テ便利ナル位置ニ在ルモノアリ然ラサルモノアリ是レ亦地代ヲ生スル原因ナリ例ヘハ都會ノ近郊ニテ產出スル農産物ヲ以テハ最早都會ノ需要ヲ充スニ足ラサルトキハ農産物ノ價ハ昇騰シ遠方ニテ同様ノ生産費ヲ投シテ產出セル農産物ヲ都會ニ運搬シ來ルモ生産費ハ勿論運搬費ヲモ價フニ至ルヘシ事茲ニ至ルトキハ都會ノ近郊ノ耕作地ハ少クモ運搬費實ノ利益ヲ得ルコト爲ルヘシ是ヲ以テ地代ノ宜キヨリ地代ヲ生スルコトヲ知ルヘシ唯リ耕作地ニ限ラス總テ貸付ノ

販賣製作上便宜ノ地位ニ在ルモノハ地代ヲ生スルモノナリ其ノ價ハ優等ノ地代ヲ生スル土地ノ地主カ自ラ其土地ヲ耕作シ又ハ使用スルトキハ地代ハ地主ノ所有ニ歸スルヤ勿論ナリト雖モ土地ヲ他人ニ貸與シタルトキニ於テモ地代ハ結局地主ニ歸スヘシ何トナレハ此ノ如キ優等ノ土地ハ其分量ニ限アリ然レトモ之カ貸與ヲ望ム者ハ通例多クシテ其人ノ間ニ競争行ハルレハナリ但シ小作期限内又ハ貸與期限内ニ生シタル地代ノ増加ハ小作人其他ノ借地人ニ歸スヘキモ其期限満了後ニハ小作料又ハ借地料ノ引上ニ因リテ該地代ノ増加ハ亦地主ニ歸スヘシ

要之地代ハ一定ノ土地ノ收穫ト最劣等地ノ收得トノ差額ナリ或ハ曰ク地代ハ生産費ニアラスト是レ蓋シ最劣等地即チ地代ナキ地ノ生産費カ總テ農産物ノ價格ヲ支配スレハナリ又或ハ曰ク地代ハ農産物ノ價格ノ原因ニアラスト是レ結果ナリト是レ蓋シ農産物ノ價昇騰シ其結果トシテ劣等地ヲ耕シ地代ヲ生セシムルニ至レハナリ二者共ニ前ニ述ヘタル所ト同一ノ意味ヲ繰返スモノナリ

以上述ヘタル地代ニ關スル學說ハ其源ヲ「スミス」ニ發シ「アングロトン」ニ「ナルナ

ス之ヲ祖述シ遂ニ「リカド」ニ至リ最モ明瞭精細ニ論究セラレタル所ニ係ル隨
 テ後世「リカド」地代説トシテ頗ル有名ナリ此學說タル佛國ノ學者バステ
 ニ「兵米國ノ學者ケリー」氏等其反對者モ少カラスト雖モ多數ノ經濟學者ノ贊
 同スル所ナリトス
 地代ハ之ヲ取得スル地主ノ働ニ因リテ生ズルモノニアラス人人ノ増加需要ノ
 増進ヲフ外部ノ事情ニ促サレ自然の差異ニ基キテ生シタルモノナリ是ニ於テ
 カ地代ヲ一箇人ノ所有ニ歸セシムルヲ以テ不當ナリトシテ二箇ノ説順ハレタ
 リ第一説ハ土地ニ課税シテ地主ノ收ムル地代ヲ取立ツヘシト云フモノナリ是
 レ英ノ「ミル佛」「ワオルコフ」米ノ「ヘンリー」「ジョー」等ノ主張スル所ナリ然レ
 トモ通常地代ト謂ヒ小作料又ハ借地料ト謂フモノノ中ニハ勞力資本ニ對スル
 報酬ヲモ包含シ精確ニ純然タル地代ノミヲ引キ離シ難シトス隨テ此説ハ實行
 シ得サルナリ第二説ハ即チ土地國有論ナリ土地私有ノ制ヲ廢スヘシトハ唯リ
 社會主義者ノ主張スル所ナルノミナラス其他ニ於テモ例ヘハ獨「ラッセル」「ス
 タム」「ヘルツカ英」「ワレー」等ノ論スル所ナリ蓋シ土地ノ國有ハ地代ノ發生

ヲ妨クル能ハス唯地代ヲ社會全體ノ手中ニ歸セシムルニ止マル今夫レ一朝土
 地ノ國有ヲ斷行セントスルモ地主ニ十分ノ報酬ヲ與ヘテ買上ケントスルトキ
 ハ非常ニ巨大ノ金額ヲ要シ政府ハ財政上何ノ益スル所ナカルヘシ縱令買上ノ
 後地代ハ益昇騰シ遠キ將來ニ於テ益スル所アリトスルモ此利ハ能ク土地カ官
 業トシテ官吏ニ由リテ管理セラレ小作人タル農夫カ土地ヲ耕スヨリ生ズル不
 利益ヲ償フニ足ルヤ疑ナキ能ハサルナリ

第三章 賃 錢

第一節 賃錢ノ意義

廣ク賃錢ト謂フトキム自己ノ事業ノ爲メニスルト將タ他人ノ事業ノ爲メニス
 ルトヲ問ハス總テ身體精神ヲ勞シタルヨリ生ズル所得ヲ指スモノナリ此意義
 ニ依レハ賃錢ハ管ニ他人ニ雇ハレテ肉體の勞力ニ服スル勞動者ノ所得ノミナ
 ラス企業者カ自己ノ計畫ニ係ル經濟事業ヲ經營管理スルノ勞ニ對スル報酬官
 吏官吏ノ受クル俸給醫師辯護士美術家音樂技術家ノ受クル謝儀給料ヲモ包含

スルモノナリ然ルニ企業者カ自己ノ勞ニ對シテ受クル報酬ハ企業者ノ得ル金所得即チ企業利益ノ一部ヲ成シ獨立ノ形ヲ顯ハナス又官吏公吏ノ俸給ハ法令ヲ以テ一定セラザル所ニシテ妄ニ人間ノ合意ヲ以テ變更スルヲ得ス反之醫師辯護士等ノ受クル謝儀給料ハ此等ノ人ト相手方トノ自由意思ニ因リテ定ムルヲ得ルモノナリト雖モ元來此等人人ノ爲ス勞力ハ精神の勞力若クハ豫メ深奥ナル修練ヲ要スル勞力ニシテ殊ニ又此等人士ノ社會上ニ占ムル地位モ低カラサルヲ以テ其勞力ニ對スル報酬モ單ニ一時一箇人ノ經濟上ノ損得ノ考ニ由リテ支配セラレスシテ大ニ習慣道德等ノ影響ヲ受ケテ定マルモノナリ然リ而シテ貨錢中實際最モ重要ナルモノハ肉體の勞力ニ服スル被雇勞動者ノ貨錢ナリ何トナレハ此等勞動者ハ實ニ人民ノ大部分ヲ相成シ其得ル所ノ貨錢ハ即チ其生計ヲ支持スルノ手段ナレハナリ以下此章ニ於テ貨錢ト謂フハ之ヲ指スモノト知ルヘシ

第二節 貨錢支持ノ形式

貨錢ノ勞力ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ナリ今貨錢支持ノ形式ヲ觀ルニ種種ノ差異アリテ一様ナラス隨テ亦貨錢ニ種種ノ種類ヲ生ス

先ツ約定ノ貨錢ヲ貨幣ニテ支拂フカ又ハ衣食住其他ノ貨財ニテ支拂フカニ由リテ貨錢ニ貨幣貨錢ト實物貨錢ト別アリ交通ノ未タ發達セザル時代ニ於テハ實物貨錢一般ニ行ハレタルモ交通ノ便開ケタル今日ニ在リテハ貨幣貨錢重ニ行ハル但シ今日ト雖モ一家内又ハ農業等ニ在リテハ尙ホ實物貨錢ノ痕跡ヲ止ム

貨幣貨錢及ヒ實物貨錢ノ別ト混同スヘカラサルモノハ名義上ノ貨錢及ヒ實際上ノ貨錢ノ別ナリ名義上ノ貨錢トハ勞動者カ現ニ貨幣若クハ貨財ヲ以テ受取ル貨錢高ヲ謂ヒ實際上ノ貨錢トハ勞動者カ其受取ル貨錢ヲ以テ取得シ得ル貨財ノ高ヲ謂フ元來貨財ノ價格ハ處ヲ異ニシ時ヲ異ニスルニ依リテ相違アルカ故ニ或處或時ノ貨錢ヲ他ノ處他ノ時ノ貨錢ト比較スルニ當リテハ常ニ此區別ニ注意セザルヘカラス蓋シ名義上ノ貨錢ハ相同シキモ之ヲ以テ所得シ得ル貨財ノ高ニ相違アルトキハ之カ爲メニ大ニ勞動者生計ノ狀態ニ相違ヲ來スヘケレハナリ

次ニ賃金ハ時間ニ依リテ支拂ハルルモノアリ之ヲ時間賃金ト曰フ又仕事出来高ニ依リテ支拂ハルルモノアリ之ヲ仕事賃金ト曰フ仕事賃金ノ方法ニ依ルハ労働者各自ノ爲シタル仕事ヲ明白ニ計リ得ヘキ場合ニ限ル之ヲ計ルコト能ハナレハ時間賃金ノ方法ニ依ラザルヘカラス労働者ヲシテ時間賃金ノ下ニ勤勉其職ニ従事セシムルニハ監督ヲ嚴ニスルヲ要ス仕事賃金ノ方法ニ依ルトキハ其必要ナク労働者自身ニ爲ス儘ニ放任シテ差支ナシ何トナレハ多ク勤ケハ多クノ賃金ハ得ヘケレハナリ然レトモ仕事賃金ノ弊トシテ労働者カ物品ノ品質ヲ粗悪ニシ又過度ニ労働シテ健康ヲ傷フノ虞アリ

又賃金支拂ノ形式ニ賞與法ナルモノアリ雇主カ労働者ヲシテ其仕事ニ出精セシメ又ハ原料器具ノ使用ニ注意セシメ又ハ長ク其職ニ止マラシメンカ爲メ特別ニ出精セル労働者原料ノ消費又ハ器具ノ損失ヲ節約セル労働者永ク勤績セル労働者ニ對シ一定ノ賃金ノ外ニ賞與金トシテ特別ノ報酬ヲ與フルコトアリ是レ即チ賞與法ナリ

又利益配分法ト稱スルモノアリ即チ雇主カ労働者ニ對シテ一定ノ賃金ヲ支拂

フノ外ニ其事業ヨリ生シタル利益ノ一部ヲ配分スルモノ是ナリ此方法ニ依ルトキハ労働者ノ利害ハ多少企業ノ利害ト相一致シ之ヲ一定ノ賃金ヲ受クルノ外労働者カ事業ノ盛衰ニ頗ル冷淡ナル場合ニ比スレハ労働者カ其職ニ勉ムルコト尠少ニアラザルヘク労働者ト企業者トノ衝突モ亦爲メニ和ケラルヘシ

第三節 賃金ノ決定

労働者ハ勞力ノ賣主ニシテ企業者ハ勞力ノ買主ナリ勞力ニ對シテ賣主ト買主トノ間ニ取極メラレタル價格ハ即チ賃金ナリ是レ全ク普通一般ノ貨財ノ價格カ賣主ト買主トニ因リテ取極メラル場合ト趣ヲ同シクス隨テ亦賃金ノ高ヲ定ムル原因ニ至リテモ普通一般ノ貨財ニ於ケルト異ナル所ナシ唯勞力其モノハ普通一般ノ貨財ト全ク性質ヲ同シクスルモノト看做スコトヲ得サルノミ今賃金決定ノ原因ヲ舉ケレハ左ノ如シ

第一勞力ノ價值 凡ソ賃金ヲ拂ヒテ労働者ヲ雇入ルル者ハ先ツ以テ其労働者ニ由リテ爲サル勞力ノ價值ヲ考定スヘク何人ト雖モ勞力ノ價值以上ニ

實錢ヲ支拂フ者ナカルヘシ而シテ雇主カ勞力ノ價值ヲ判定スルノ標準ハ何ナリヤト云フニ是レ此勞力ヲ以テ作り出サレル實財ノ交換價值其實際ニ顯ハレタル實財ノ價格ニ外ナラスシテ勞働者ノ爲ス勞力ハ同一ナルモ實財ノ價格高ケレハ企業者ニ取リテ勞力ノ價值多ク實財ノ價格低ケレハ勞力ノ價值亦少シ此ノ如ク勞力ノ價值判定ノ標準ハ實財ノ價格ニ在レトモ元來實錢ハ生産費ノ一部ニシテ器械ノ修理費資本ノ利子等實錢以外ノ生産費モ之ヲ實財ノ價格ヨリシテ之ヲ補ハサルヘカラサルカ故ニ實際企業者ハ實錢以外ノ生産費ヲモ考ヘテ實錢ニ充ツヘキ高ク定ムルモノナリ而シテ實錢ハ其昇騰ノ極限主ヲシテ毫モ純益ヲ得ル能ハサルニ至ラシムルコトヲ得ヘシト雖モ其點以上ニハ長ク止マルコトヲ得ス何トナレハ事茲ニ及ヘハ雇主ハ損失ヲ被リ早晚事業ヲ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

第二企業者ノ資力 企業者カ生産上要シタル資本ハ再ヒ之ヲ生産物ヨリ回收スルコトヲ得ヘク殊ニ又自己ノ財産ナキトキハ信用ニ依リテ他ヨリ資金ヲ借入レテ實錢ノ支拂ニモ充テ得ヘキカ故ニ企業者ノ資力ノ如何ハ別ニ實錢

ノ高ニ關係ヲ有セサルカ如シト雖モ實ハ然ラス是レ蓋シ企業者ノ資力大ナレハ原料ヲ買入レ資金ヲ借入ルル等ノ點ニ付キ萬事資力少ナキ者ヨリモ利益アル地位ニ立ツ隨テ此等ノ爲メニ費ス費用割合ニ少ク又隨テ實錢ニ向ケ得ヘキ部分多ク高キ實錢ヲ出シテ優等ノ勞働者ヲ雇入ルルコトヲ得ヘケレハナリ

第三勞力ノ生産費 勞力ノ生産費ハ(一)ニ勞働者ノ養育教育ノ費用ヲ含ム 勞働者カ其幼少ノ時ニ受ケタル養育教育ノ費用ハ之ヲ實錢ヨリ回收セサルヘカラス形容シテ言ヘハ是レ恰モ投下シタル資本ヲ利子ト合セテ回收スルノ趣アリ(二)ニ其時其處其勞働者社會ニ行ハルル生活ノ程度ニ應ジテ必要ナル自己及ヒ家族ノ生計費ヲ含ム 勞働者ハ自己並ニ家族ノ生活上是非トモ缺クヘカラサル必要費ヲ得サルヘカラサルヤ勿論ノコトナレトモ管ニ之ニ止マラス當時其勞働者社會ニ於テ習慣トシテ行ハルル生活ノ程度ニ照シテ要スル費用ハ之ヲ實錢ヨリ得サルヘカラス生活ノ程度ヲ降スコトハ唯ヲ外ニ對シテ大ニ面目ヲ損スルノミナラス自己一身ニ取リテモ頗ル苦痛

ヲ成スルコトナレハ生活ノ程度ハ實ニ勞働者カ固ク守リテ屈セス實錢ヲシテ其以下ニ下ラサラシメント努ムルノ點ナリ左レハ亦實錢ノ増加アリタルトキ長ク之ヲ維持セントセハ勞働者カ其生活ノ程度ヲ高ムルニ如クモノナシ

右述ヘタル勞力ノ生産費ト實錢ノ關係ハ所謂「カード」ノ實錢法則ノ基ク所ナリ「カード」氏ノ言フ所ニ據レハ勞力ノ價格即チ實錢ハ恰モ物品ノ價格ノ如ク其生産費ニ據リテ決セラル該生産費ハ即チ勞力ノ自然ノ價格ニシテ需要ト供給ノ關係ニ因リテ實際勞力ニ對シテ支拂ハルル實錢(即チ勞力ノ市價)ハ此自然ノ價格ノ上下ニ昇降スルモノナリトセリ此說タルヤ管ニ多クノ經濟學者ノミナラス又社會主義者ノ採用スル所ト爲リ彼ノ社會黨ノ領袖株ナ「ラッナル」氏ノ如キハ之ヲ呼ビテ「是レ今日實錢ヲ支配スル冷酷金ノ如キ法則ナリト言ヘリ同氏ハ尙ホ說明シテ曰ク「實錢ハ到底永ク此平均點以上ニ昇ルコト能ハス何トナレハ實錢其以上ニ昇リ勞働者ノ位置少シク安易ト爲レハ勞働者ノ人口増加シ隨テ勞力ノ供給増進シ爲メニ再ヒ實錢ヲレテ從前ノ

所マテ若クハ其以下ニ下落セシムヘケレハナリ又實錢ハ長ク此生活上缺ヘカラザル維持費以下ニ下ルコト能ハス何トナレハ實錢其以下ニ下ルトキハ移住又ハ結婚ノ抑止因窮ニ因ル勞働者ノ減少等ノ爲メニ勞力ノ供給ニ減少ヲ來セ隨テ實錢ヲレテ再ヒ從前ノ位置ニ復セシムヘケレハナリト氏ハ此理ニ據リテ更ニ勞働者ナル者ハ常ニ同家ノ生計ノ程度ノ下ニ蠢蠢トシテ働ク所ノ憐レ果敢ナキモノナリト斷言セリ蓋シ「カード」カ勞力ノ自然ノ價ヲ説クヤ恰モ之ヲ一定不動ノモノノ如ク論シタル所偶、以テ「ラッナル」カ之ニ據リテ自家ノ社會主義說ヲ唱フルノ具ト爲スニ至リタルモノナリ然レトモ元來勞働者ノ生計ノ程度ハ一定不變ニアラス時勢ノ進歩ト共ニ漸漸亦昇騰スルコト之ヲ事實ニ照スモ明白ナリ況ヤ勞働者自身ノ行爲ニ由リテ之ヲ高ムルコトモ爲シ得ヘキモノナルニ於テヲヤ

第四實錢ノ價值 勞働者カ其受クル實錢ノ價值ヲ量ルニ當リテハ先ツ(第一)ニ其實錢ヲ以テ若干ノ欲望ヲ滿シ得ヘキヤヲ考フヘシ若シ夫レ今日通例實錢ノ支拂ニ充テララルル貨幣ノ價值即チ其購買力低キトキハ實錢ハ高カラサル

ヲ得ス反之貨幣ノ價值高キトキハ賃錢ハ低クシテ可ナリ左レハ貨財ノ物價
 殊ニ食料品ノ價安キトキハ賃錢モ亦下落スルノ傾アリ反之其價高キトキハ
 賃錢モ亦騰貴スルノ傾ヲ生ス(第二)ニ又追次賃錢増加ノ見込アルキヲ考フヘ
 シ漸漸増シ行ク賃錢ハ終始一様ナルモノヨリモ初ハ少額ニテモ可ナリ即チ
 増加ノ見込アル賃錢ハ勞動者ニ取リテ價值多キ賃錢ナリ(第三)ニ賃錢ハ正確
 ニ又長ク支拂ハルヘキヤヲ考フヘシ支拂ノ不確カナルカ又ハ永續ノ見込ナ
 キ賃錢ハ支拂ノ正確ニシテ又永續ノ見込アル賃錢ヨリモ勞動者ニ取リテ價
 値少ナキモノナリ

第五需要ノ競争 一定ノ企業ニ於テ勞力ニ對スル需要ノ競争ハ賃錢ヲ昇騰セ
 シムルノ傾アリ然リ而シテ勞力ニ對スル需要ニハ時時變動アルコト言フヲ
 挾タス此變動タルヤ或ハ技術上ノ原因ヨリ起ルコトアリ例ヘハ機械ノ使用
 ノ爲メニ職工ノ需要ニ減少ヲ來スカ如キ是ナリ又或ハ經濟上ノ原因ニ基ク
 「コトアリ例ヘハ事業ヨリ生スル利益増加シ爲メニ勞力ニ對スル需要亦増進
 スルカ如キ是ナリ」

第六供給ノ競争 勞力ノ供給ノ競争ハ賃錢ヲ下落セシムルノ傾アリ殊ニ非修
 練の勞力ノ場合ニ於テ甚シトス何トナレハ此種ノ勞力ニ在リテハ何人モ容
 易ニ競争ノ群中ニ加ハルコトヲ得ヘケレハナリ
 要之以上種種ノ原因交々相倚リテ賃錢ノ額ヲ定ムルモノナリ但シ道德習慣其他
 經濟以外ノ原因ニシテ賃錢ニ影響ヲ及ボスモノ亦多シト雖モ此等ハ姑ク之ヲ
 皮外視スルコト尙ホ前ニ一般貨財ノ價格ヲ論シタル場合ニ同シトス

第四節 賃錢基金說

賃錢ハ先ツ以テ企業者ノ資本中ヨリ支拂ハルモノナリ然ルニ此資本ハ一
 定ノ時期ニ於テ其額一定ストノ思想ヨリ「ミル氏ハ賃錢基金說ヲ唱出セリ此說
 ニ據レハ賃錢ノ高ハ賃錢ノ支拂ニ充テラルル全資本額即チ賃錢基金ニ關係ヲ
 有スルモノニシテ此基金ト勞動者ノ人口トノ比例ニ因リテ定マルモノナリ勞
 働者ノ數ヲ以テ賃錢基金ヲ除シテ得タルモノハ即チ勞動者ノ得ル平均ノ賃錢
 高ナリ但シ此基金ハ一定不動ノモノニアラスシテ貯蓄及ヒ富ノ増殖ニ因リテ

増加ス而シテ基金増加シ而モ之に伴ヘル勞動者人口ノ増加ナキトキニ於テ始
 マテ一般ニ質貸ノ昇騰ヲ見ルヲ得ヘシ基金ノ増加ナキニ一部ノ勞動者カ質貸
 ノ増加ヲ得ルトキハ是レ他ノ勞動者ニ對スル基金高ヲ減少シ其質貸ノ下落ヲ
 來スヘキカ故ニ他ノ勞動者ヲ害スルモノナリト爲セリ
 質貸基金説ハ「ソレントン」氏ノ攻撃ニ由リテ「モル」氏自身モ晚年ニ至リテ之ヲ
 「拾アタルモノニシテ」ソレントン氏ノ外獨ノ「ヘルマン」ヨロドバルツス「ブレ
 ン」ノ諸氏モ亦此説ヲ論駁シ今日ニ於テハ英國ノ經濟學者ト雖モ全然之ニ同意
 ヲ表スルノ人ナシ抑モ勞動者ノ受取ル質貸ハ其外見ニ於テハ企業者ノ資本ヨ
 リ拂渡サルルコト通例ナリト雖モ勞動者ハ必スシモ生産ノ終了以前ニ於テ企
 業者ノ資本ヨリ質貸ヲ受取ルニ及ハス自己ニ多少ノ貯蓄アルトキハ之ヲ以テ
 自ラ支持シ生産終了シ生産物ニ對スル代價カ企業者ノ手ニ入りタル後ニ於テ
 其價ノ中ヨリ約定ノ質貸ヲ受取ルモノ何ノ妨ナカルヘシ況ヤ又企業者カ其資
 本中ヨリ質貸ヲ支拂フ場合ニ於テモ質貸ノ眞ノ出處ハ企業者ノ資本ニアラス
 シテ生産ノ價格更ニ廻リテ言ヘハ該生産物ヲ買ヒテ其代價ヲ支拂フ消費者ノ

所得ニ在リ企業者ハ單ニ他日ノ回收ヲ豫期セテ質貸ヲ前拂スルニ過タルニ於
 テラヤ且ツ又企業者ハ自己ノ手中ニ於テ質貸ノ支拂ニ充テヘキ十分ノ質貸ナ
 キトキハ信用ニ依リテ他ヨリ借入レテ之ニ充ツルコト最モ容易ナルヘシ要
 スルニ企業者ノ資本中ニ於テモ又國民全體ノ資産中ニ於テモ一定ノ時ニ質
 貸ノ支拂ニ充テラルルモノト豫メ確定セラルヘキ基金ナルモノアルコトナ
 。

第四章 利子

利子ハ資本ヲ利用セシメタル報酬トシテ資本主ノ受クルモノナリ利子ハ貸渡
 タレタル資本例ヘハ器具機械等ノ損傷滅却ニ對スル補償ヲ含マス單純ニ資本
 ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ノミヲ指スモノナリ而シテ資本額ト之ニ對シ
 テ一年ノ間ニ支拂ハルヘキ利子トノ比例之ヲ利子歩合ト曰フ例ヘハ百圓ニ對
 シ利子トシテ年ニ七圓支拂ハルルトキハ其利子歩合ハ七分十圓ナルトキハ一
 割ト云フカ如シ

利子ハ器具機械建物ノ如キ固定資本ノ利用ニ對シテ支拂ハルル場合アリ(貸付
借料又流動資本即チ原料貨幣等ノ借入ニ對シテ支拂ハルル場合アリ貨幣ノ借
入ニ對シテ支拂ハルル場合ニハ特ニ之ヲ貸金利子ト曰ヒ最モ普通ニ見ル所ノ
モノナリ
利子ハ資本ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ニシテ此價格ノ決定ヲ支配スル原
因ハ總テ他ノ場合ニ於ケルモノト異ナルコトナシ即チ下ノ如シ
第一借主ニ對スル資本ノ價值 生産ニ使用スルカ爲メニ若クハ其他ノ目的ヲ
以テ資本ヲ借受クントスル人ニ取リテ其資本ノ價值多ケレハ彼ハ高キ利子
ヲ拂フニ躊躇セサルヘシ

第二借主ノ賣力 借主ノ賣力即チ元利ヲ支拂ヒ得ルノ力ハ一方ニ於テハ其財
産ノ多少ニ關係ヲ有シ他方ニ於テハ借入資本ノ使用ニ因リテ取得シ得ヘキ
利益ノ多少ニ關係ヲ有ス自己ノ消費ノ爲メニ資本ヲ借入ルル場合ニ於テ賣
産アル者ハ高キ利子ヲ支拂フヘク生産ノ爲メニ借入ヲ爲ス場合ニ於テ借入
資本ニ依リテ多クノ利益ヲ得ルノ見込アル者ハ高キ利子ヲ支拂フヘシ但シ

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十五日 三十日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トス、シ

明治二十二年十二月九日内務省許可

明治三十四年六月六日印刷
明治三十四年六月十日發行

東京市芝區四谷仲町三丁目三十八番地

編輯者 小田 幹 治 郎

東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地

印刷者 金子 鐵 五 郎

東京市芝區西ノ久保町舟町十一番地

印刷所 金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)